

185  
7  
5

明治二十一年一月分

法令類纂  
第壹號

宮城縣文書課

3643

No 9178

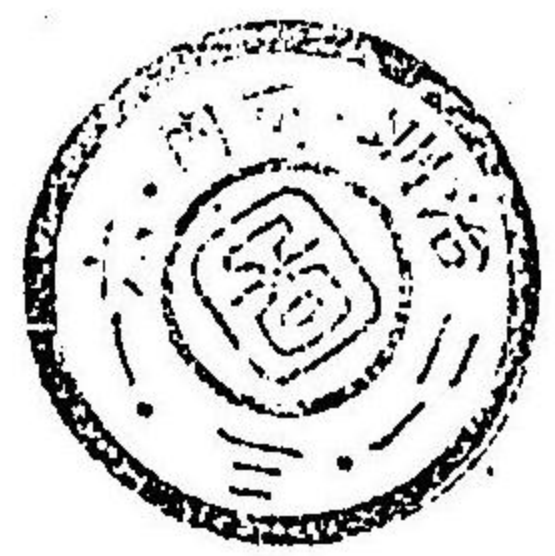
CZ  
1113  
17



冠シテ之ヲ區分シ別ニ全文ヲ掲載セス

一本書ハ毎月初其前月中奥羽日々新聞紙官報縣報欄内ニ掲載シタル諸法令ヲ編纂スルモノトス  
但告示諸達中一時ニ止マリ後來ノ參照ヲ要セサルモノハ其要領ヲ目錄欄内ニ摘記シ圖點ヲ

本書ハ從來例親自錄ニ從テ類目編纂セシト雖也時日甚タ遷延ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ唯ダ  
其目錄フニ類別シ其下ニ丁數ヲ付シ本文參照ノ便ニ供ス  
同指令照會通知并ニ報告類ト雖也必要ト認ムルモノハ亦タ其部類中ニ併セ錄シテ以テ參考ニ  
唯供ス



318.1

80W01277

○法令類纂目錄 明治廿一年

爵位勳等

勅	三	日	勳章増設ノ詔	十八丁
勅	一	日	勳章等級製式及大勳位菊花章頸飾製式	十八丁

閣省官制官規

勅	廿五	日	農商務省專賣特許局ヲ廢シ更ニ特許局ヲ置キ其官制ヲ定ム	一丁
全	廿八	日	陸軍將校生徒試驗委員條例	六丁
全	廿八	日	營林主事補及森林監守任用方	七丁
全	廿八	日	陸軍下士官採用規則	七丁
閣	廿八	日	技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スル者ヲ任用スルノ例規ヲ定ム	九丁
農商務省令	六	日	特許局庶務部審判部審査部分掌規程	四十四丁

宮內省	達令	全八	八月	博物館自今圖書寮ニ属ス	六十四丁
全	達令	全八	八月	博物館官制ヲ定ム	六十四丁

府縣官制官規

宮城縣	告示	四一	四月	租稅檢査員派出所移轉	十八丁
-----	----	----	----	------------	-----

府縣會

宮城縣々	令	廿四	四月	縣會議員撰舉會開設期日延期	七十六丁
------	---	----	----	---------------	------

印章

宮城縣	令	廿一	一月	印章木版銅版活字版類卸小賣ヲナサントスル者届ノ件	七十丁
-----	---	----	----	--------------------------	-----

圖書出版

內務省	令	廿四	四月	出版條例版權條例脚本樂譜條例並ニ寫眞版權條例ニ關スル願届手續等ヲ定ム	九十三丁
內務省	告示	廿六	六月	新聞紙ニ關スル諸届書式ヲ定ム	百五丁

備荒儲蓄

宮城縣	令	廿五	五月	明治廿一年度備荒儲蓄金方法ヲ定ム	七十七丁
-----	---	----	----	------------------	------

衛生

宮城縣	令	廿四	四月	製氷及販賣取締規則ヲ改ム	七十一丁
內務省	告示	廿四	四月	衛生試驗所ニ係ル檢査印紙貼付其他ノ件	

社事

內務省	訓令	十一	一月	官國幣社造修不用ノ古材木屑等二十年度以降處分ニ係ル分其社へ下渡サシム	五十一丁
-----	----	----	----	------------------------------------	------

兵制

宮城縣訓令 第六號 廿七日 明治廿年(四月)訓令第卅七號陸軍召集事務取扱細則中 追加 九十二丁

徵發

宮城縣訓令 第一號 廿七日 徵發令第十二條第二項ノ馬匹及車輛屬具調査様式ヲ示ス 四十六丁

學制

文部省告示 第十五號 廿八日 高等中學校發科生徒員數不足ノ時補充ニ其學科程度準據方 十一丁

農商務省告示 第十號 廿八日 東京農林學校々則 五十二丁

逓信省告示 第二百五十二號 廿八日 函館商船學校逓信省直轄トス 五十二丁

文部省 第一號 廿二日 尋常中學校ノ學科及其程度第六條刪除 五十二丁

全二省 號令 十二日 小學校ノ學科及其程度第十條中改正 五十二丁

船車

逓信省訓令 第一號 十九日 西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代整理及拂下高報告方 七十六丁

全七告 號示 廿一日 乙種二等運轉手免狀流失 四十九丁

全九告 號示 廿四日 西洋形船ノ信號符字点付 四十九丁

海軍省告示 第一號 廿八日 東、雷電、千代田形ノ三艦々籍ヨリ除名 四十九丁

鑛山

農商務省訓令 第一號 廿七日 寒水石等ノ鑛物日本抗法第三款所屬トシテ取扱ニ付從前許可ノ試掘借區券返納セシム 四十九丁

郵便

逓信省告示 第二百四十九號 廿七日 郵便局電信局合併及改稱 四十九丁

全二百五十號 廿七日 加賀浦郵便局外六局ニ於テ貯金事務取扱ハシム 四十九丁

全二百五十一號 廿七日 石崎浦郵便貯金預所廢止 四十九丁

第全一號示	十一日	長門國赤間關郵便局及電信局合併	
第全二號示	十一日	萬國郵便聯合條約實施細目規則第十五條中改正	
第全三號示	十一日	伊豆國和田郵便局改稱	
第全四號示	十三日	岩代國若松郵便局電信爲換開施	
第全五號示	十一日	根室國郵便局及電信局合併	
第全八號示	廿四日	磐城國下津嶋郵便局移轉改稱	
電 信			
遞信省告示第六號	廿一日	肥前國佐世保電信局設置	
第全十號示	卅一日	武藏國橫濱電信局石川郵便支局移轉改稱	
農工商			
農商務省令第四號	廿九日	茶葉組合規則ヲ定ム	十丁

第大藏省訓令第一號	七月	博覽會共進會開會ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其場ノ内外ニ於テ販賣ニ係ル取扱方	五十丁
第農商務省訓令第二號	九月	茶葉組及會議所設置期限ヲ定メ其規約ヲ議定セシム	五十一丁
銀行會社			
大藏省告示第八十號	廿八日	郡山第六十八國立銀行支店設置	
第全百八十二號示	廿八日	第二國立銀行發行銀行券引替延期	
博覽會共進會			
勅令第八十號	廿八日	第三回內國勸業博覽會事務局官制	三丁
農商務省訓令第二十號	廿九日	第三回內國勸業博覽會事務取扱ニ係ル件	十八丁
農商務省告示第十一號	廿九日	第三回內國勸業博覽會規則	二十丁
牧 畜			

宮城縣告示 廿一月八日  
 皮膚及鼻疽病ニ罹ル患馬治療中ナルモ傳染ノ恐アルモノ豫防注意ノ件  
 百四丁

漁魚

宮城縣訓令 廿一月一日  
 漁業取締規則ヲ改ム  
 六十六丁

宮城縣訓令 廿一月八日  
 二十年一月ヨリ十二月ニ至ル水産統計表様式ヲ示ス  
 百一丁

國稅

大藏省訓令 七月一日  
 十八年第七十四號違報告表調理順序別冊中廢止削除  
 五十丁

宮城縣訓令 廿一月一日  
 煙草營業者ニシテ製造烟草ヲ買入グルキ印紙消印ノ傍ニ住所氏名彫刻セシ印章捺捺スヘシ  
 六十五丁

地方稅

宮城縣訓令 十一月一日  
 地方稅支出規則第十九條ニ據リ仕拂切符ニ年度記入ノ件  
 五十一丁

宮城縣訓令 十一月一日  
 明治廿一年度地方稅追加徵收期限更正  
 六十九丁

全縣 號令 廿一月一日  
 明治廿一年度地方稅徵收期限ヲ定ム  
 六十九丁

區町村費

宮城縣訓令 十一月九日  
 區町村費收支規則  
 五十三丁

出納公債

大藏省告示 第百八十一號 廿二月八日  
 金祿公債證書發見

全縣 第一號 十一月一日  
 中山鐵道公債證書燒失

全縣 第二號 十一月一日  
 起業公債證書發見

全縣 第三號 十一月三日  
 起業公債證書紛失

勅令 第二號 十一月一日  
 明治十五年度歲計決算

大藏省告示 第四號 十一月一日  
 金祿公債證書紛失及盜難

全縣 第五號 十一月一日  
 起業公債證書發見

全 省 訓 令	全 廿 四 日	歲入下戻金ノ内出納閉鎖ノ期ヲ過キ現金未濟ノモノアルハ承認取消ヲ稟申セシム	七十七丁
全 告 示	全 廿 七 日	起業公債證書發見	

俸給旅費

勅 令	廿 五 日	特許局審査官及審査官補官等俸給ヲ定ム	三丁
宮 城 縣 訓 令	十 三 日	郡區役所ヨリ國庫金出納所へ送付ノ召集旅費概算表欄外ニ朱書記載方	五十一丁
全 訓 令	廿 三 日	召集旅費概算表十一年度ニ限り取扱項目	六十五丁

警 察

宮 城 縣 縣 令	十 八 日	止宿人届規則	五十二丁
全 告 示	十 八 日	人民ノ請願ニヨリ船岡村へ巡查駐在所ヲ設置ス	五十三丁

○勅令

明治二十年十二月二十五日

朕農商務省專賣特許局ヲ廢シ更ニ特許局ヲ置キ其官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十三號

特許局官制

第一條 特許局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ發明商標及濫匠ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 特許局ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

局長

局次長

審判官

審査官

審査官補

屬



技手

第三條 局長ハ一人奏任一等二等トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中全部ノ事ヲ掌理シ審査官ノ査定ニ對スル不服申立アルトキハ之ヲ審判ス

第四條 局長ハ一人奏任トシ現任局長ノ次等以下トス局長ノ事務ヲ佐シ局長ナキトキ又ハ局長事務アルトキハ其事務ヲ掌理ス

第五條 審判官ハ三人以内奏任トス局長ヲ佐ケ審査官ノ査定ニ對スル不服申立ヲ審判スルコトヲ掌ル

第六條 審査官ハ奏任トス局長ノ命ヲ承ケ發明商標及意匠ニ關スル審査事務ヲ分掌シ査定ノ責ニ任ス其定員ハ農商務大臣審査事務ノ繁閑ニ從ヒ閣議ニ提出シ裁可ヲ經テ之ヲ定ム

第七條 審査官補ハ判任トス審査官ノ命ヲ承ケ發明商標及意匠審査ノ事務ニ從事ス

第八條 局ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ニ從事ス  
第九條 技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ製圖ニ從事ス  
第十條 特許局ニ庶務部審判部審査部ヲ置キ庶務部ニ第一課第二課及圖書館ヲ置ク其分掌規程

ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ラシム

○勅令 明治二十年十二月二十五日

朕茲ニ特許局審査官及審査官補ノ官等俸給ヲ裁可ス

御名 御璽

勅令第七十四號

特許局審査官及審査官補ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給例ニ依ル

○勅令 明治二十年十月廿八日

朕第三回内國勸業博覽會事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十號

第三回内國勸業博覽會事務局官制

第一條 第三回内國勸業博覽會事務局ハ明治二十三年東京上野公園内ニ開設スヘキ博覽會ニ關

スル一切ノ事務ヲ管理ス

第二條 第三回内國勸業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ設ク

總裁 一人

副總裁 一人

事務官長 一人

審査官長 一人

事務官 若干人

審査官 若干人

事務官補

審査書記

第三條 總裁ハ皇族勅ニ依リ之ニ任 副總裁ハ農商務大臣ヲ以テ之ニ充テ事務官長審査官長ハ勅任官事務官ハ委任官審査官ハ委任官又ハ到任官事務官補審査書記ハ到任官ヲ以テ之ニ充ツ  
第四條 事務ヲ分掌セシムル爲メ便宜課ヲ設ケ審査ヲ分掌セシムル爲メ部ヲ設ケ各課各部ニ其長ヲ置ク

第五條 課長ハ事務官部長ハ審査官ノ中ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 副總裁ハ所部ノ官吏ヲ統督シ局務ヲ總刺ス

第七條 委任官ノ進退ハ副總裁ノ奏請ニ依リ閣議ノ後裁可ヲ經内閣ニ於テ之ヲ命ス到任官ハ副

總裁其所屬大臣ト協議ヲ經テ之ヲ命ス

第八條 副總裁ハ本會ノ事務ニ關シ諸規則ヲ定メ及警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ

訓令ヲ下スコトヲ得

第九條 副總裁ハ内外ノ學識經驗アル者ヲ選ンテ學藝其他ノ要件ヲ諮問シ若シハ審議調査セシ

メ又ハ之ニ審査官ヲ命スルコトヲ得其審査官ハ副總裁ノ奏請ニ依リ裁可ヲ經テ委任官ニ准シ

待遇スルコトアルヘシ

第十條 副總裁ハ本會ノ經費豫算定額内ヲ以テ備員ヲ使用シ又ハ委任官以下ノ勤勞アル者及第

九條ノ人員ニ賞與シ又ハ報酬スルコトヲ得

第十一條 事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ一切ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 審査官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條 事務官ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十四條 審査官ハ審査官長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十五條 事務官補審査書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各其庶務ニ従事ス

○勅令 明治二十年十二月廿八日

朕陸軍將校生徒試験委員條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十一號

陸軍將校生徒試験委員條例

第一條 試験委員ハ士官學校生徒ノ將校試験、幼年學校生徒ノ終末試験、士官候補生及幼年學校生徒志願者ノ試験ヲ行フモノニシテ將校學校監ニ隸ス

第二條 試験委員ヲ常置スルコト左ノ如シ

委員長 大佐 一名

委員 中少佐 八名 大尉 九名

第三條 將校學校監ハ委員ヲシテ各種ノ試験ヲ分擔セシメ委員長ヲシテ之ヲ統監セシム

第四條 前條ニ掲グル委員ノ外所要ニ應シ臨時委員ヲ命シ委員長ノ下ニ屬セシム

第五條 各種試験ノ時期ニ際シ書記トシテ下士若シハ陸軍屬若干名ヲ試験委員ノ下ニ屬ス

第六條 委員長以下總テハ本職アル者ヲ以テ之ニ兼補スルモノトス

○勅令 明治二十年十二月二十八日

朕營林主事補及森林監守任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十二號

林區署所在地方ニ居住シ近接森林ノ狀況並ニ土地 慣習ニ通曉セル者ヲ營林主事補及森林監守ニ選任スルノ必要アルトキハ農商務大臣定ムル所ノ採用規則ニ依リ之ヲ選任スルコトヲ得但該規則ニ依リ選任シタル營林主事補及森林監守ハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

○勅令 明治二十年十二月二十八日

朕陸軍下士官採用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十三號

陸軍下士官採用規則

第一條 陸軍下士ニシテ左ニ掲グル者ハ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得

一 戰役若クハ公務上ノ傷疾疾病ニ因リ免官シ尙文官ノ勤務ニ堪ル者

二 再服役以上滿期ノ下士ニシテ精勤證書ヲ所持スル者

第二條 陸軍下士ハ本人ノ請願ニ因リ試験ヲ要セスシテ判任官トナルコトヲ得

第三條 海軍省ヲ除クノ外各官廳ニ於テ判任官ヲ任用スルニハ少クモ五人ニ付一人ハ陸軍下士

ノ文官請願者ヲ以テス可キモノトス

第四條 文官タランコトヲ欲スル者ハ服役滿期前六箇月間又滿期若クハ免官後十二箇月間ニ之

ヲ請願ス可シ

第五條 請願者ニ於テ教官技師官クランコトヲ望ム者アルトキハ之ヲ採用セントスル官廳ニ於

テ相當ノ試験ヲ施行スルコトヲ得

第六條 請願者ノ名簿ハ本人請願ノ順序ニ從テ調製シ之ヲ陸軍省ニ備置ス可シ

第七條 請願者ノ採用ニ其兩年内ニ係ルモノハ第一條各項ノ順序ニ從ヒ其同項内ニ於テハ服役

特日ノ多キ者ヨリ採用シ其服役特日ノ同シキ者ハ請願特日ノ順序ニ從ヒ採用ス可シ

第八條 各官廳ニ於テ請願者ヲ採用スルトキハ陸軍省ニ照會シ直ニ本人ヲ其廳ニ呼出ス可シ

第九條 陸軍省ニ於テハ前條ノ照會ニ依リ第七條ニ照シ請願者ノ氏名及履歷書、其官廳ニ交付

ス可シ

第十條 請願者ニ於テ其請願ヲ取消サント欲スルトキハ陸軍省ニ届出可シ

第十一條 本則施行ニ要スル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム可シ

○閣令第二十八號 明治二十年十二月二十八日

本年(七月)勅令第三十七號文官試験試補及見習規則第二十條ニ據リ別設ノ試験法ヲ定ムルマテハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スル者ヲ任用スルニハ左ノ例規ニ依ルヘシ

一 奏任官ハ本則第三條ニ準シ各種ノ學術技藝ニ就キ一定ノ資格アル者又ハ第十七條ニ準シ其履歷ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分

年齢等豫メ文官試験局長官ノ銓衡ヲ經テ後各省大臣ヨリ奏聞ノ手續ニ及フヘシ  
一判任官ハ本則第四條ニ準シ各職ノ學術技藝ヲ修メ一定ノ資格アル者ヲ命シ其他ノ者ハ經歷  
ニ依リ相當ノ資格アリト認ムヘキ者ヲ選ヒ本人ノ履歷學術技藝ニ關スル證書ノ寫身分年齢  
等豫メ普通試験委員長ノ調査ヲ經テ之ヲ命スヘシ

本年七月勅令第三十七號文官試験試補及見習規則其他之ニ關スル法令中試験ニ關スル條項ノ  
外通則試補判任官見習ニ就キ規定シタルモノハ技術官及特別ノ學術技藝ヲ要スルモノニモ適用  
スルモノトス

○文部省告示第十五號

明治廿年十二月廿八日

高等中學校豫科生徒ノ員數不足ノ場合ニ於テハ營外ノ内膳科補充生ヲ入學セシムルコトアルヘ  
シ但其學科及程度ハ尋常中學校第三年級若シハ第二學級及第一學級ノ學科及程度ニ據ルヘシ

○農商務省令第四號

明治二十年十二月二十九日

茶業組合規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但十七年二月第四號達茶業組合規則ハ廢止ス

### 茶業組合規則

#### 第一章 總則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及  
生葉若シハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條 茶業者ハ製品ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナサシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ  
之ニ加入スヘシ

但自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメサルモ妨  
ナシ

第三條 組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡區内ニ於テ茶業者小數ナルトキハ近隣郡  
區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及生葉  
若シハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ト區別シテ組合ヲ設ケルノ必要アルモ農商務大臣ノ許  
可ヲ受クヘシ

第五條 組合ノ名稱ハ何(府縣)何(郡區)茶業組合ト稱スヘシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務處ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ東京ニ中央會議所ヲ設クヘシ

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條 社名若シハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ

責ニ任セシムヘシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

但選任及ヒ陞選ノ都度聯合會議所ヲ經テ地方廳ニ届出ツヘシ

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ハ其旨會議所ニ通知スルコトヲ得

第十七條 組長ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議及中央會議ニ列スルコトヲ得

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メシル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ受扱ハシムヘシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議員ニ於テ全國組合員中ヨリ之ヲ選定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖モ選舉スルコトヲ得

第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第四章 會議

第二十四條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

第二十五條 聯合會議ニ於テハ會議所所在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ

全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十六條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ選定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議員之ヲ選定スヘシ

第二十七條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ産額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第二十九條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ツヘシ

第二十條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 會議ハ議員半數以上出席セザレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ス

但議員半數以上ノ欠席三日以上ニ涉ルルハ半數以內ト雖モ議事ヲ開クコトヲ得

第二十二條 議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナルルハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章 規約

第三十三條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ムヘシ

- 一 組合ノ位置
  - 一 組合員ノ證票
  - 一 粗悪不正茶取締ノ方法
  - 一 役員選舉ノ方法
  - 一 組合入退者取扱ノ方法
  - 一 違約者處分ノ方法
  - 一 經費賦課徴收支出ノ方法
  - 一 其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件
- 第三十四條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 一 聯合會議所ノ位置
  - 一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法

- 一 製造及販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法
  - 一 部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法
  - 一 聯合會議々員及ヒ事務員選舉ノ方法
  - 一 聯合會議ニ關スル規程
  - 一 違約者處分ノ方法
  - 一 經費賦課徴收支出ノ方法
  - 一 其他地方ノ情況ニ依リ必要ナル條件
- 第三十五條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 一 中央會議所ノ位置
  - 一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法
  - 一 内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法
  - 一 中央會議々員及ヒ事務員選舉ノ方法
  - 一 會議ニ關スル規程



一 經費賦課徵收支出 方法

一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第六章 罰則

第二十六條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違反シタル者ハ金二圓以上金二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○農商務省訓令第二十號 明治二十年十二月二十九日 北海道廳 府縣

第三回内國勸業博覽會ノ事務ハ當省第十號告示該會規則ニ依リ取扱フヘシ

○宮城縣告示第一號 明治二十一年一月四日

租稅檢査員佐沼派出所ヲ岡部北方村ニ移轉ス

○詔勅 明治二十一年一月三日

朕曩ニ勳位ヲ定メ佩章ノ制ヲ設ク茲ニ復潤飾増設シ新舊與ニ併行シ勳功アル者ヲ賞旌シ以テ獎勵ノ道ヲ擴ム汝衆庶此旨ヲ體セヨ

○勅令 明治二十一年一月三日

朕各種ノ勳章等級製式及ヒ大勳位菊花章頸飾ノ製式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第一號

一 寶冠章

勳一等ヨリ勳五等ニ至ル婦人ノ勳勞アル者ニ賜フ

章 寶冠ト竹櫻ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地黃色雙線紅色

一 勳一等旭日桐花大綬章

旭日大綬等ノ上級トス勳勞アル者ニ賜フ

章 旭日ト桐花ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地紅色雙線白色

一 瑞寶章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル勳勞アル者ニ賜フ

章 鏡珠ノ形ヲ以テ飾ル

綬 地淡藍色雙線橙黃色

一 大勳位菊花章頸飾

頸飾ハ大勳位ニ叙セシ者ニ特別之ヲ賜フ菊花頸飾ノ形ト明治二字古篆文ヲ以テ飾ル

○農商務省告示第十一號

明治二十年十二月二十九日

第三回内國勸業博覽會規則左ノ通相定ム但規則第四條ノ部類目錄ハ追テ告示スヘシ

第三回内國勸業博覽會規則

第一章 總則

第一條 本會ハ明治二十三年四月一日ヨリ七月三十一日マテ東京上野公園内ニ開設ス

第二條 内國産ノ物品ハ普ク出陳スルコトヲ得但左ニ掲ケルモノハ出陳スルヲ許サス

一 内外國博覽會若クハ共進會ニ出品シ審査ヲ受ケシモノ

二 明治十八年以前ノ採取、産出又ハ製造ニ係ルモノ

三 發火及破烈ノ性アルモノ、他ノ出品ニ損害ヲ與フルノ虞アルモノ衛生ニ害アルモノ其

他汚穢醜體ノモノ

第三條 外國品又ハ第二條第一項第二項ノ物品ト雖モ參考ニ必要アルモノハ本出品ニ添へ出陳スルコトヲ得但形體巨大ノモノ及多數多量ヲ出陳スルヲ得ス

前項ノ添出品ハ賣買スルコトヲ許サス

第四條 出品ヲ大別シテ左ノ八部ト爲ス部中ノ類別ハ部類目錄ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第一部 工業

第二部 美術

第三部 農業及園藝

第四部 動物

第五部 水産

第六部 山林

第七部 礦業及冶金術

第八部 機械

第五條 出品陳列ノ爲メ左ノ六館ヲ設ケ部類目錄ニ從ヒ類別陳列ス

本館 (第一部及第七部)

美術館 (第二部)

農林館 (第三部及第六部)

動物館 (第四部)

水産館 (第五部)

機械館 (第八部)

第六條 動物館ハ明治二十三年五月一日ヨリ同十五日マテ之ヲ開ク

第七條 事務局ハ出品陳列ノ都合ニ依リ其場所ヲ増減變更セシメ又ハ出品ノ部類ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第八條 遺産改良上模範トナルヘキ内外國物品ハ事務局ニ於テ適宜蒐集シ特ニ参考館ヲ設ケ之ヲ陳列スヘシ

第九條 本會ニ出品セント欲スル者ハ地方長官ニ願出ヘシ地方長官ハ之ヲ許可スルトキハ甲號

書式ニ依リ出品目錄二通ヲ作り明治二十二年八月二十日限其願ヲ發シ事務局ニ差出スヘシ但  
第二部出品ノ目錄ハ同二十三年一月三十一日限發送スヘシ

出品ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙號書式ニ依リ出品解説書二通ヲ作り地方長官ニ差出スヘシ地方  
長官ハ之ヲ取纏メ明治二十三年二月十五日限其願ヲ發シ事務局ニ差出スヘシ

第十條 第二部ノ出品ニ限リ事務局ニ於テ鑑別許否スヘキニ由リ地方長官ハ其願書ヲ取纏メ明  
治二十二年十二月十五日限リ其願ヲ發シ本局ニ差出シ出品人ヲシテ同期限内ニ其現品ヲ發送  
セシムヘシ但其種類ニ由リ部類ヲ變更シ出品ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 地方長官ノ許可ヲ經シ出品ト雖モ事務局ニ於テ第二條ノ各項ニ觸レ若クハ第三條ニ  
掲ケル參考ニ必要ナシト認ルモノハ其出陳ヲ拒ミ又ハ陳列後撤去セシムヘシ

第十二條 第九條ノ出品目錄及出品解説書ニ依リ事務局ニ於テ出品總目錄及出品總解説書ヲ編  
纂スヘシ

出品解説書中公衆ニ示スコトヲ厭フ事項ハ朱書スヘシ

第十三條 地方長官ハ其管下ノ出品ニ係ル一切ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ委員ヲ設クヘシ

第十四條 左ニ掲グルモノハ事務局ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

- 一 飾臺飾箱及陳列ニ要スル階子、踏臺
  - 二 部類別ノ標札
  - 三 出品付札、不賣品付札添出品付札及賣買約定簿付札
  - 四 機械運轉ニ要スル蒸氣及動原機並其附屬品
  - 五 鉅重ノ物品陳列ニ要スル基礎ノ構造
  - 六 重大ノ物品陳列ニ要スル雨覆ノ類
  - 七 動物ノ飼料及之ニ要スル器具
  - 八 出品ヲ許サ、ル第二部物品ノ返送費
- 第十五條 左ニ掲グルモノハ出品主ニ於テ之ヲ自辨スヘシ
- 一 出品ノ荷造及運送費
  - 二 出品陳列ニ係ル諸費
  - 三 自己ノ望ニ依リ調製スル飾臺及飾箱費

- 四 飾臺及飾箱ニ用フル鋪布其他陳列品ノ粧飾費
- 五 陳列品及其周圍掃除ニ要スル諸費
- 六 出品主又ハ代理人ノ往返及滞在諸費
- 七 前數項ノ外第十四條ニ掲ケサル諸費
- 第十六條 機械館所要ノ外各館内ニ於テ用火ヲ禁ス
- 第十七條 陳列品ハ事務局ニ於テ相當ノ保護ヲナスト雖モ万一盜難火水風震其他ノ事故ニ因リ破損紛失スルトキハ本局其責ニ任セス
- 第十八條 陳列品ハ開會中場外ニ出スコトヲ許サス
- 第十九條 看守人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ陳列品ニ觸ル、コトヲ許サス
- 第二十條 出品主ノ承諾ヲ經事務局ノ許可ヲ得ルニ非レハ陳列品ヲ寫眞シ又ハ摸寫スルコトヲ許サス但會場ノ景況ヲ寫眞シ又ハ摸寫セントスル者ハ出品主ノ承諾ヲ要セス
- 第二十一條 出品主ニ於テ會場外ニ賣店ヲ設ケ出品ト同種ノ物品ヲ販賣セントコトヲ出願スルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ但東京府區内ノ出品主ニハ之ヲ許サス

賣店ニ關スル規則ハ事務局ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第二章 出品

第二十二條 定ニ掲タル出品ハ巨額ノ總積及需用ノ馬力等各其要領ヲ記シ明治二十一年十二月三十一日マテニ地方廳ヲ經テ事務局ニ通知スヘシ

一 機械ノ運轉ヲ示ス爲メニ蒸氣力ヲ要スルモノ

二 鉦鑿ノ物品ニシテ敷テニ基礎ノ構造ヲ要スルモノ

三 一箇ノ物品ニシテ地積二坪以上若クハ高サ十八尺以上ヲ要スルモノ

第二十三條 出品ノ搬入及陳列ハ明治二十三年二月一日ヨリ同月二十五日マテトシ其搬出ハ閉場後三十日以内トス

但蔬菜果物ノ生物及盆栽類ハ其季節ニ隨ヒ陳列シ二週間ノ後搬出スルコトヲ得

第二十四條 動物ハ明治二十三年四月二十五日ヨリ同月三十日マテニ入場セシメ五月十六日ヨリ一週限内ニ退場セシムヘシ但傳染病ノ虞アリト認ムルモノハ入場ヲ差止め若クハ退場セシムヘシ

第二十五條 出品陳列ノ場所ハ事務局ニ於テ嚴狹ヲ定メ配當スヘシ

第二十六條 出品主ハ出品ノ番號品名、賣價、產地製造者及自己ノ住所氏名ヲ出品付札ニ記載シ每品ニ添付スヘシ但不賣品ハ不賣品ノ札ヲ付シ添出品ハ添出品ノ札ヲ付スヘシ

第二十七條 出品中現品ノミニテ其性質効用ヲ知ラシムルコト能ハサルモノハ説明書ヲ添フヘシ又礦物藥品ノ類ニテ分拆ヲ經タルモノハ其分拆表ヲ付スヘシ

第二十八條 出品ト同種ノ物品ニシテ内外國博覽會若クハ共進會ニ於テ褒賞ヲ得タルモノハ其賞品又ハ模形寫圖ヲ添付スルコトヲ得

第二十九條 陳列品中賣買約定ヲナシタル品ニハ賣買約定濟ノ札ヲ付テ置クヘシ

第三十條 陳列場所ヲ交換シ又ハ改造シ若クハ土工ヲ要スルトキハ事務局ノ許可ヲ受クヘシ陳列品ノ位置ハ開場後事務局ノ許可ヲ得ルニアラサレハ變更スルヲ得ス

第三十一條 出品ノ陳列ハ高サ十八尺ヲ超ユヘカラス

第三十二條 機械ノ効用ヲ示スカ爲メ製出シタル物品ハ場内ニ於テ販賣ヲ許スコトアルヘシ

第三十三條 陳列品中腐敗又ハ融解等ニテ他ニ妨害アリト認ルモノハ搬出セシムヘシ

第三十四條 陳列品ハ各出品主ニ於テ便宜之ヲ看守スヘシ

第三十五條 出品主ヨリ事務局ニ申出ヘキ事件ハ委員ヲ經由スヘシ但急遽ノ事件ハ此限ニアラズ

第三章 來觀

第三十六條 來觀時間ハ毎日午前八時ヨリ午後五時マテトス但都合ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ來觀ヲ差止ルコトアルヘシ

第三十七條 來觀人ハ入場券ヲ携フヘシ

入場券ハ一名一枚ニ限ル但滿五年以下ノモノハ之ヲ要セス

第三十八條 入場券ハ分テ四種トス

- 一 特別入場券 紫色 一枚代價金二圓
- 一 日曜日同 紅色 同 十五錢
- 一 土曜日同 白色 同 三錢
- 一 平日同 青色 同 七錢

特別入場券ハ入場ノ際之ヲ兩衛ニ示シ一枚ヲ以テ開場中來觀スルコトヲ得其他ノ入場券ハ入場ノ際兩衛ニ渡スヘシ

第三十九條 瘋癲又ハ醉狂者ト認ムルトキハ入場ヲ禁シ又ハ退場セシムヘシ

第四十條 入場券ハ便宜ノ場所ニ於テ賣捌カシムヘシ

第四章 審査

第四十一條 出品ハ總テ審査ヲ爲スモノトス其審査ハ開會當日ヨリ始メ六月二十日ニ終ル

第四十二條 左ノ出品ニハ審査ヲナサス

- 一 試製試作品
- 二 賣藥
- 三 書籍新聞紙雜誌等ニテ文章若クハ旨趣ヲ主トスルモノ
- 四 添出品
- 五 第二十三條但書ノ出品ニシテ六月二十日以後ノ出陳ニ係ルモノ
- 六 官廳ノ出品

第五章 褒賞

第四十三條 出品中優等ノモノニ對シ其出品主ニ褒賞ヲ授與ス出品主製産者ト異リ若クハ協贊人アルキハ或ハ其一人ニ授與シ或ハ其各人ニ授與スルヲアルヘシ其授與ノ褒賞左ノ如シ

一 名譽賞牌 金造

全國ニ冠絶シ名譽ヲ海外ニ輝カスニ足ルヘキ出品ヲナシタル者ニ與フ

一 進歩賞牌 銅造 自一等至三等

發明改良等ニ因リ進歩ノ著シキ出品ヲナシタル者ニ與フ

一 妙技賞牌 銅造 自一等至三等

美術ノ卓越ナル出品ヲナシタル者ニ與フ

一 有功賞牌 銅造 自一等至三等

物産ヲ増殖シ販路ヲ弘メ估價ヲ低クシ或ハ便益ノ機械器具ヲ適用シ又ハ模造移殖セシ等ニ因テ功勞アル者若シハ從來ノ方法ニ由ルモ他ニ超越スル出品ヲナシタル者ニ與フ

一 協贊賞牌 銅造 自一等至三等

物品ノ採集考案ノ指示又ハ出品ノ製産ニ與カリ協助ノ功アル者ニ與フ

一 褒狀

前記ノ諸項ニ亞クヘキ出品ヲナシタル者ニ與フ

第四十四條 本會出品ニ關スル事務ノ成跡ニ依リ其官廳若クハ其委員ニ別ニ褒賞ヲ付與スルコトアルヘシ

第四十五條 褒賞授與式ハ明治二十三年七月一日ヲ以テ執行ス

第四十六條 出品ノ再審査ヲ請ヒ又ハ授與ノ褒賞ヲ返還スルコトヲ許サス

甲號書式

委員檢印

第何部何類		何府縣何國何郡何村何番地 <small>(本籍又ハ寄留)</small>	
出品主		何之誰	
番號	物名	產地(國郡區町村)	原價
數量	容積	製産者或ハ協贊人(氏名)	買價

						同	同
						同	同
						同	同
						同	同
						同	同
						同	同

凡例

一本紙ハ一類毎ニヤチ尙出品者一名毎ニ之ヲ作ルヘシ  
 一番號ハ各出品主毎類之ヲ起スヘシ  
 一容積ハ長何尺幅何尺厚何尺ト記シ數量ハ何枚何對何疋何反何箇若干ハ何斤何匁何合等ト記スヘシ幾箇ヲ合セテ一品ト爲スモノハ其合セタル積ヲ量ルヘシ

乙號書式

一目錄ハ每類一冊ト爲スヘシ  
 一產地ノ出品主居住地ト同シキトキ又ハ製産者ノ出品主ト同シキ時ハ之ヲ記スルヲ要セス

製造物解説取調書式	(寄留人ハ本籍並寄留地ヲモ記ス)
物(出品ノ本名並ニ譯名アルモノハ)	方(從來ノ稱呼及里名)
名記載ス	言(記スヘシ)
	出品人
	應府管下何國何郡何村何番地
	族籍職業名
	氏名
	印

產地製造場

(何管下何國何郡何村町字何ヘ何年 舶來蒸氣何馬力ノ機械又ハ本場間口何十間 附屬建物何箇所ヲ何社又ハ何組合ニテ設置スルカ或ハ燒窯<sup>ヤキカマ</sup>巾<sup>ナカマ</sup>何十箇所ヲ築キ或ハ自宅ニテ製造スル等ノ類ヲ認ムヘシ尤此雛形ニ倣ヒ取調フル出品ハ都テ化學上ノ製造物ヲ初メ部類目錄中第一第二及其他ノ部中照準スル諸製造物ノ製造所等ヲ記載スヘシ但以下素質ヲ初メ各目ニ照合シ順序等明細ニ認ムヘシ尤物品ニヨリ右名目ハ適宜取捨スルハ妨ケ



素質  
ナシ

(陶器ナラハ何國何郡何村字何山ヨリ何々ノ土ヲ掘採シ何々ノ順次ヲ以テ春碎フキク又何々ノ  
装置シカケヲ以テ水籤シ物品ノ素質ヲ調整シ又漆器ナラハ器物ノ木地並漆共何國何郡何村何  
山等ヨリ掘ル何ノ木地或ハ漆ヲ以テシ又織物ハ自作ノ生糸或ハ綿糸ヲ以テスル歟或ハ  
何レノ産ノ糸ヲ買求セシモノ歟又機械ノ類ニテ鐵ハ何國何郡何村礦山ヨリ出ツル所ノ  
モノ或ハ木ハ何レヨリ出テタル何ノ木又硫酸其他ノ製シ類ハ其原質産地及品種等都テ  
製造物ノ元ト成ル所ノモノヲ認ム)  
(但雜器雜品等些少ノモノニテ産出地名等明瞭ナラサルモノハ産地不詳何々即チ元質  
ノミヲ記スヘシ)

製造用品

(陶器ナラハ何々ノ湖藥或ハ繪ノ具類織物ナラハ染料等ノ類都テ製造スル器械ノ外製造  
ニ用フル物品ヲ記スヘシ)

製造法

(陶器ナラハ前條ニ掲グル素質或ハ製造用品ヲ以テ何々ノ順序等ニテ製成スルノ類)  
(石油ナラハ燭油揮發油機械油「バラヒン」其他顯出物何程並取扱手續各油比重モ成ルヘ  
クハ記スヘシ)  
(石鹼ナラハ一種ノ脂油ヲ以テ製練シタルモノカ又二三種ノ脂油ヲ合テ練リタルカ鹼汁

ノ種類曹達サウダカ鉛ロウ錫カス亞斯アスカ脂油ト鹼汁ノ配合又化粧石鹼ナラハ芳香油或ハ香水等混合ノ  
手續分量ヲ記スヘシ)

開業沿革

(創業ノ年月及ヒ詳書ニ據ル者ハ其書名人名又何國誰々ヨリ傳習或ハ洋和參酌自己ノ實  
驗ニ由ルナトノ履歴詳細ニ記スヘシ)

製造機械

(即チ製造機械ニ用フル機械何々ヲ認ムヘシ)

製造人名

(即チ製造人ノ住所姓名ヲ認ムヘシ)

産出種類

(陶器ナラハ甕ハ花瓶ヲ總品シ即チ前記物名ニ花瓶ト認メ又織物ナラハ白縮緬ヲ出品シ  
其物名ヲ認ムルト雖モ陶器製造所或ハ織物製造場ニテ製出スル各種ハ此所ニテ指示サ  
ン爲メ毎品名ヲ記載シ其他之ニ準スルモノハ皆此例ニ倣ヒ認メ又一種ヲ製造スル場所  
ニテ其一種ヲ出品スルモノハ産出種類ノ名目ヲ除クヘシ)

効用

(出品ヲ爲シタルモノ、用前條ハ花瓶ノ如キ花生ニ止マルモノハ効用ノ名目ヲ除キ又幾  
種ノ石膏ハ即チ主用スル所ハ藥種ナレトモ陶器銅器ヲ製造スル形杯ニナル等類ヲ物品

ノ主用スル所ト其一物ヲ他ニ使用スルノ類ヲ認ムヘシ  
産出高總計

(明治二十二年 從一月一日 至十二月三十一日 産出高何千何百何十何斤等此代價凡何萬何千何百圓若新設

品

ノ工場ニテ一箇年未滿ノトキハ其創業ヨリノ産出高ヲ記スヘシ)

(右産出並代價ハ一種ノモノヲ製造シ其一種ヲ出品スルトキハ必ス其産出高等ヲ認ムヘキ筈ナレハ譬ハ陶器所ニテ花瓶ノ一種ヲ出品スルトモ産出高ハ花瓶ニ拘ハラズ各種ノ陶器産出ヲ認ムヘシ又織物等モ此ニ同シ)

褒賞

(何年何月何博覽會又ハ何共進會へ出品シ及何々ノ事由ヲ以テ何々ノ賞ヲ賜ハル云々ト記載スヘシ)

審査請求ノ主眼

(特ニ審査ヲ要スル主眼アルモノハ例ヘハ從來ノ方法ニ何々ノ改良ヲ加ヘ何々ノ便利ヲ生シ又何々ノ點ニ考察ヲ盡シ何々ヲ發見シ何々ノ結果ヲ得タリ其他販賣高ヲ増加セリトカ或ハ外國ニ輸出ヲ謀レリ云々等總テ其要點ヲ記載スヘシ)

動物及其産物並獵具ニ添テ差出スヘキ書式

(寄留人ハ本籍並寄留地ヲモ記ス)

物	方	出
(牛或ハ馬ト記スル如シ)	(舊來習ハシタル名假令ハ爾ナレハ黃爾トカ白爾トカ糸ナレハ白捻造トカ黃折返シ造トカ記スル如シ)	府管下何國何郡何町何番地 縣 核籍職業名 氏名 印
名	言	名

牧場及産地

(何管下何國何郡何村何原何野何山字何々)

年齢並長短

(家畜ナラハ齡何歳何月並長何尺何寸ト記シ或ハ牛馬ナラハ何歳ヨリ使用等ヲ記スルノ類)

種

(但牛羊馬其父母洋種ナラハ其種類ヲ記スヘシ譬ハ牛ナラハ「シヨルトホルン」種羊ナラハ「メリノ」種馬ナラハ「アラビヤ」種ト云フノ類ナリ雜種モ之ニ準ス)

育養並餌料

(牛馬牧飼ニハ何々ヲ與ヘ分量日ニ何程○凡家畜并家獸ノ初生ナラハ食料ノ分量注意ノ法○齧テラハ卵殼尙枚置何々ヲ掃棄桑葉何貫ヲ要シ而シテ掃立ヨリ上籾迄ノ日數其養方順序并病害等ヲ防キタル方法アラハ詳細ニ記載スルノ類)

捕獲并器具

(狐ナラハ此獵具ニテ捕ヘ云々○鷹見ナラハ何々ト詳細記載スルノ類)

所長并効用

(牡牛ナラハ耕作或ハ重ヲ牽クノ長アリ牝牛ナラハ乳酪並食料ニ供シ○馬ナラハ遠行ニ用ヒテ迅足ノ長アリ○熊、並鹿ナラハ毛皮ヲ以テ敷物及其他ノ用ニ供スル等詳細記載スルノ類)

製造並收藏

(獸皮ヲ韋ト爲セシ者ハ其方法○鳥羽ナラハ何々ヲ用ヒ濕黴蟲蠹ノ害ヲ防キ並剥皮時節ヲ記ス○鳥獸ノ肉ナラハ蒸熟シ或ハ風乾シ又鹽藏シテ腐敗ノ患ヲ防キ○生糸ナラハ製糸ノ釜敷工男女ノ人員就業ノ日數等ヲ詳細記載スルノ類)

産出高總計

(一箇年産出總高何十何疋或ハ何貫何斤何枚又繭ナレハ何石何斗何升系ナレハ何貫何匁ト記載スルノ類)

代價高總計

(一箇年産出代價凡金何百何十何圓ト記載スルノ類)

褒賞

(製造物解説書式ニ同シ)

審査請求ノ主眼

(製造物解説書式ニ同シ)

水産及漁具ニ添テ差出スヘキ書式

(寄留人ハ本籍並寄留地ヲモ記ス)

物 (何網或ハ何魚ト 記スルカ如シ)	方 (舊來言ヒ習ハシ タル名)	出 府廳 管下何國何郡何村何番地	名 氏 職 業 名 印
名	言	名	人

産地並製造場

(何管下何國何郡何村何海何湖何河或ハ何村何番地ト記載スヘシ)

年齢並長短

(鯨鯨ノ類ナラハ長何丈何尺ト記シ其他蝦介蟲ノ如キハ各其大小寸尺ヲ記載スヘシ)

(但養殖ニ係リタル魚介即チ鮭、鱈、牡蠣等ハ何年間育養云々ト記載スヘシ)

採捕並器具

(何々ノ器具ヲ以テ何月ヨリ何月迄採捕云々其方法ノ詳細ヲ掲記スヘシ)

育養法並餌料

(養成ノ季節並順序餌料其他病害ヲ防キ又ハ何々ノ害敵ヲ防ク等ノ方法ヲ詳細記載スヘシ)

製造並保存

(罐ナラハ何樹ヲ用非網ナラハ何糸ヲ用非製法何ニシテ凡何年間ハ損敗セス云々食鹽ナ

ヲハ何月頃何法ニテ製造シ其他魚類ノ乾製鹽藏等ノ品ナラハ其製法ノ順序及保存方ヲ詳記スヘシ

使用法

(船ナラハ漁人何人乗組遠近海或ハ湖川ニテ用井網ナラハ船何艘ニテ使用シ製造器械ナラハ火力又ハ水力ヲ用井人夫何人ヲ要シ養魚器ナラハ湧水又ハ川流ニテ使用シ運搬器ナラハ駄送又ハ負擔スル等各其用法ヲ記載スヘシ)

沿革

(捕獲ノ時ナラハ此物ハ古來生殖スル所ニシテ何代ノ祖某何頃ヨリ之ヲ捕獲シ何頃ヨリ何々ノ原因ニテ増減ヲ來シ又製造物ナラハ此物ハ凡何年頃ヨリ何代ノ祖某製造シ何頃ヨリ増減シ其他移植物ナラハ何頃何某何地ヨリ移シ爾來ノ景況云々ト其沿革ノ要ヲ摘記スヘシ)

所長並効用

(漁具ナラハ何々ヲ漁獲スルニ用ヒ油ナラハ藥用又ハ燈用トナシ介類ナラハ釘鈕、螺鈕トナシ魚皮魚骨ノ類ナラハ何々ニ用井其他海外貿易品ニ供スル等詳細記載スヘシ)

販路

(何管下何國何郡何村等其重ニ販賣スル地方ヲ記載スヘシ)

販賣高總計

(一箇年販賣高何十何貫其代價何百何十何圓ト記載スヘシ)

(但商品ニシテニ種類ニ係ルモノ、ヨリ記載スヘシ)  
産出並ニ製造高總計

(一箇年産出高何十何貫何斤何枚又ハ何十何尾製造高何十何貫何斤ト記載スヘシ)

代價高總計

(一箇年産出代價凡金何百何十何圓製造品代價何々ト記載スヘシ)

調整並出版年曆

(圖書ナラハ何年何月著述或ハ出版ト記載スヘシ)

引用書目

(何々書或ハ何々圖説ト記載スヘシ)

出版高並代價高

(出版高何部代價何百何十何圓ト記載スヘシ)

褒賞

(製造物解説書式ニ同シ)

(審査請求ノ主眼製造物解説書式ニ同シ)

鑛業冶金術取調書式

(寄留人ハ本籍並寄留地ヲモ記ス)

物 (金鑛或ハ銅鑛ト)	方 (舊來言ヒ習ハシ)	出 府廳 管下何國何郡何村何番地
名 記スル如シ	言 タル名	族籍職業名 氏名印

産物並發見

(何管下何國何郡何村何山何川字何々産)

開業及廢業年曆

(何年間ニ開坑シ又ハ堀出シ切出ス等及當時ノ産出高廢坑或ハ廢山ナレハ其年曆原因等書類或ハ口碑ニ傳フルモノアレハ之ヲ記シ再興ノ見込アルモノハ其方法借區或ハ試堀中ナレハ其次第ヲ記載スルノ類)

地質鑛脈鑛質及坑區

(地質ハ何々石通俗ノ方言ヲ記スモ可ナリ)ニシテ鑛脈ノ方位ハ子午或ハ卯酉ニ通シ(石炭ナレハ炭層通亘ノ方位及厚サ)脈ノ傾斜ハ卯酉西ニ向ヒ或ハ子ヨリ午ニ向ヒ其傾度ハ幾度ニシテ鑛走ハ子ヨリ酉ノ方ニ斜走(俗ニ言フ山向落シ跡向落シ)スル等ナリ又主鑛ハ何鑛ニシテ副産鑛ハ何々(銀鑛ニシテ銅或ハ鉛鑛ヲ副産シ亦銅鑛ニシテ砒或ハ「コバルト」鑛ヲ副産スルカ如シ)ニシテ伴鑛石ハ何石ト記載スヘシ非金屬鑛及土石類ハ現在ノ狀態亦石炭硫黃等藏量ノ概測或ハ實測ヲ爲シタルモノハ其量額ヲ記載シ亦惣テ

脈層通亘ノ區域ト現今坑區ノ面積ヲモ詳記スヘシ

採鑛及切石法

(採鑛法ハ舊法ニ由ルカ或ハ洋法ヲ取テ改良シタルカ其改良ハ何々ノ部分ニシテ其裝備ハ何々ナリヤ通洞或ハ坑井ヲ設ケタラハ其間數又鑿岩器械ヲ以テシタルカ手堀カ坑内外ニ鐵條ヲ設ケタルモノハ其間數鑛車ハ何式ヲ用フルカ吸水器ヲ設ケタルモノハ一時間ノ吸量ヲモ記シ撰鑛器械ヲ用ルモノハ其之ヲ用テ撰鑛スルノ方法及製量又其器械ハ蒸氣ニ由ルカ水車ニ由ルカ、切石法ハ舊法カ又洋風ヲ用フルカ又大ナルモノハ豎橫幅何尺迄ノモノヲ切出シ何々用ニハ何々寸尺ニ切出ス等ノヲ記載スヘシ)

製煉法

(製煉セント欲スル鑛物ハ燒鑛ニ附スルカ直ニ製煉スルカ燒鑛製煉法共舊法ニ由ルカ又其幾部分ヲ改良シタルカ又全シ洋式ヲ用フルカ改良燒鑛爐及鎔鑛爐ニテ操業ノ順序、粗製煉ヨリ精製分鍊ニ至ル迄ノ諸方法○石油ナラハ其製煉ハ何々ノ方法ニシテ副産ニ「パラフィン」或ハ瀝青ヲ製スル等詳細之ヲ記載スヘシ○石灰ナレハ密ハ舊式ナリヤ洋式ナリヤ燃料ニハ木炭ナリヤ無焰炭ヲ用ルヤ烘燒ノ時間詳細等ニ之ヲ記載スヘシ)

運搬法產出高及代價

(運搬ハ山元ヨリ某川港都市及鐵道迄ハ牛馬ニ依ルカ或ハ車道ヲ新築シ或ハ鐵路ヲ設ケ或ハ川身ヲ改良シテ舟行ノ便ヲ宜シタル等ノ如キハ其詳細ヲ記シ其運搬費ヲモ記スヘシ又用法ニハ金銀ハ造幣局ニテ貨幣ト爲シ安質母尼及硫黃ハ粗製煉ノ儘輸出用ト爲

シ銅、或ハ輸出用或ハ内地用或ハ副産ノ硫酸ハ肥料ニ用ヒ又蠟石ハ石筆用、彫飾用、建築用ガチ記載スヘシ又其前一箇年間ノ産鑛量製出金銀銅等又ハ石灰石材等ノ原量及其賣捌代價ヲモ記載スヘシ

産出高及代價統計

(明治八年以後年々ノ製出金銀銅等ノ量及其代價ノ統計ヲモ表記スヘシ)

褒賞

(製造物解説書式ニ同シ)

審査請求ノ主眼

(製造物解説書式ニ同シ)

○農商務省令第一號

明治二十一年一月六日

特許局庶務部審判部審査部分掌規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

特許局分掌規程

第一條 庶務部第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 公文往復ニ關スル事項

二 會計ニ關スル事項

三 特許願書檢閲ニ關スル事項

四 他部課ノ主管ニ屬セサル事項

第二條 庶務部第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 特許證登錄證發行ニ關スル事項

二 特許發明明細書及特許、登録ニ關スル公報等編纂印刷ニ關スル事項

三 願書明細書類保存ノ事

四 讓與分與等ニ關スル事項

五 圖面ノ檢定及製圖ノ事

第三條 庶務部圖書館ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 參考用圖書ノ保管及觀覽ニ關スル事項

二 未特許發明標本管理ノ事

三 特許發明品及登録商標意匠等ノ陳列所ニ關スル事項

四 内外國文書翻譯ノ事

第四條 審査部ニ於テハ審査官ノ査定ニ對スル不服事件ノ審判ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 審査部ハ之ヲ六部ニ分テ其事務ヲ分任セシム

- 一 第一部ニ於テハ發明抵觸ノ審理査定ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 第二部ニ於テハ商標ノ審査及登録ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 第三部ニ於テハ工匠ノ審査及登録ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 第四部ニ於テハ機械的發明ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 第五部ニ於テハ化學的發明ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル
- 一 第六部ニ於テハ第四部第五部ニ屬セサル發明ノ審査ニ關スル事務ヲ掌ル

○宮城縣訓令第一號 明治二十一年一月七日 郡 區

徵發令第十二條第二項ノ馬匹及ヒ車輛屬具ノ員數左ノ様式ニ依リ去ル二十年分ヨリ調査シ毎年一月卅一日限り無遲滞差出シ可シ

但徵發令第十四條及ヒ乘馬飼養令ニ據リ飼養スル馬匹ハ調査ニ及ハス

明治二十一年一月七日 郡 區

明治 馬匹員數表

十二月卅一日現在

何郡區

郡區	種別	合 計		考備			
		牝	牡				
何 郡 區	馬車馬屬具員數表	五才以上十六才未滿	五才未滿	十六才以上	四尺三寸未滿		
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
		乘馬	駕馬	一駄馬	乘馬	駕馬	一駄馬
合計							

備考  
合計

第一 馬匹(乘馬、駕馬、駄馬、耕馬)ハ年齡五才以上十六才未滿(年齡ハ二十年分チ調査スル件)ノモノヨシテ第二項ヨリ第四項ニ適當ノモノチ合格トシ其他ノモノチ不合格トシ調査スベシ  
但年齡ハ生年チ一歲トシテ計算スベシ

第二 乘馬ハ身幹四尺五寸(曲尺)以上ヨシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシモノチ算入スベシ

第三 駄馬ハ身幹四尺三寸以上ヨシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシモノチ算入スベシ  
但現在耕馬ニ役スルモノ又ハ曾テ耕馬ニ役セシモノハ本項ノ駄馬ニ算入スベシ

第四 駕馬ハ身幹四尺五寸以上ヨシテ現在駕馭ニ役スルモノ又ハ曾テ駕馭ニ役セシモノチ算入スベシ

第五 車輛ハ二輪又ハ四輪ノ八乘馬車荷馬車(馬チ駕シ得ルモノハ総テ含有ス)ニ限ル又器具完

全ニシテ數日ノ運轉ニ耐ユルモノチ甲トシ器具完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノチ乙トシ調査スベシ

第六 屬具ハ(鞍鞍附屬繩共)ニ限ル又其材料完全ニシテ數日間ノ使用ニ耐ユルモノチ甲トシ材料完全ナラサルモノ一纏ノ用ニ供シ得ヘキモノチ乙トシ調査スベシ

第七 二郡以上チ管理スル郡役所ハ各郡別ニ調査記入スルモノトス

○農商務省訓令第一號

明治二十一年一月七日

北海道廳 府縣

自今左記ノ鐵物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候條從前許可チ得タル試掘借區券此際返納セシムベシ

寒水石(大理石)

斑石(温石)

燧石

硝子石

蠟石



○大藏省訓令第一號

明治二十一年一月七日

北海道廳 府縣

博覽會共進會開設ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其會場内外ニ於テ特ニ販賣スルトキ其取扱方ハ左ノ通心符ヘシ

但明治十一年(六月)內務大藏兩卿連署乙第四十七號達ハ自今廢止ス

一從容免許ノ營業人ニシテ出品スルモノハ罰發免許證札ヲ貼ルニ及ハス

一印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ總テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ

一出品主ニシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スルモノモ亦前二項ニ準ス但其店頭ニ免許何營業人住所氏名ヲ記載セル標札ヲ掲出スヘシ

一前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場内狹隘ノ爲メ止ムヲ得サルトキ其場邊旁ニ一定ノ區域ヲ限リテ之ヲ許用スルコトヲ得

○大藏省訓令第二號

明治二十一年一月七日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十八年(十二月)第七十四號達報告表調理順序別冊中自今第七號第十號第十八號第二十號樣式報告ヲ廢止シ期限一覽表中該表件名並期限共削除ス

○農商務省訓令第二號

明治二十一年一月九日

府縣 岩手縣青森縣山梨縣 秋田縣沖繩縣ヲ除ク

明治二十年(十二月)當省令第四號ニ據リ設置スヘキ茶業組合及會議所ハ本年二月二十九日マテニ之ヲ設ケ其規約ヲ議定セシムヘシ

○宮城縣訓令第二號

明治廿一年一月十一日

郡區 縣立學校書籍館

地方稅支出規則第十九條ニ據リ發附スル仕拂切符ニハ年度ヲ記入ス可シ

○內務省訓令第一號

明治二十一年一月十日

北海道廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

官國弊社造修不用ノ古材木屑等二十年慶以降處ニ係ル分ハ現物並代金トモ其社ヘ下渡スヘシ

○宮城縣訓令第三號

明治二十一年一月十三日

郡區

陸軍召集條例第六十五條ニ據リ郡區役所ヨリ國庫金出納本所ヘ送付ノ召集旅費概算表欄外ニ五月十日調ハ第一次十一月十日調ハ第二次ノ三字朱書ス可シ

但客年十一月十日調ニシテ既ニ送付ノ分ハ追報ス可シ

○文部省令第一號

明治廿一年一月十二日

明治十九年(六月)文部省令第十四號尋常中學校ノ學科及其程度第六條中中學豫備ノノ五字ヲ刪

除ス

○文部省令第二號

明治二十一年一月十二日

明治十九年(五月)文部省令第八號小學校ノ學科及其程度第十條中體操ノ部隊列運動ヲ兵式體操ト改ム

○大藏省訓令第三號

明治二十一年一月十四日

北海道廳 府縣

當省ノ主務ニ關係アル廳府縣令ハ今後發布ノ都度當省ニ報告スヘシ

○縣令第一號

明治廿一年一月十八日

止宿人届規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

止宿人届規則

第一條 本則ハ宿屋營業ニ非ラサル家屋ニ於テ來客ヲ宿泊セシメタル者ニ適用ス

第二條 宿泊人アリタルトキ該戶主ハ族籍住所身分職業氏名年齢及ヒ到着ノ日時ヲ詳

記シ其到着ノ時ヨリ二十四時内ニ所屬警察署又ハ分署若シハ巡查派出所巡查駐在所ニ届出可

シ若シ戶主無能力者ナル時又ハ戶主未定或ハ不在ナル時等ハ其一家ヲ管理スル者ヨリ届出シ

可シ

但別居ノ父子兄弟姉妹及其配偶者又ハ其子孫ノ宿泊ニ係ルキハ本條ノ届出ヲ要セス

第三條 宿泊人歸去シ又ハ他ニ移轉シ若シハ其儘留シシメタル時ハ二十四時内ニ其事由ヲ詳

記シ該戶主又ハ管理者ヨリ所屬警察署又ハ分署若シハ巡查派出所巡查駐在所ニ届出可シ

第四條 第二條第三條ニ依リ届出ヲ爲サントスル者所屬警察署又ハ分署若シハ巡查派出所巡查

駐在所ニ違隔ナルキハ其届書ニ發出ノ日時ヲ記シ便宜郵便ニ附スルモ妨ケナシ

第五條 第二條第三條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十

五錢以下ノ科料ニ處ス

○告示第二號

明治廿一年一月十八日

柴田郡船岡村外三ヶ村人民ノ請願ニ依リ船岡村へ巡查駐在所ヲ設置ス

○宮城縣訓令第四號

明治廿一年一月十九日

郡區町村

區町村費ハ明治二十一年度ヨリ左ノ規則ニ依リ收入支出ス可シ

但此規則ニ抵觸スル従前ノ令達ハ明治二十年年度限り廢止ス

區町村費收支規則

第一章 總則

第一條 郡區役所ニ於テ區町村費收支ノ現金ハ現金取扱人ヲ置キ之ヲ取扱ハシム可シ

第二條 戶長役場ニ於テ區町村費收支ノ現金ハ主任ノ筆生又ハ現貨保管人ヲシテ之ヲ取扱ハシム可シ

第三條 區町村費收支ノ科目ハ別表ニ據ル可シ

第四條 區町村費收支ノ豫算ハ區町村會ノ議決ヲ經テ定ムルモノニ據ル可シ

第五條 區町村費收支ノ決算ハ別ニ定ムル規則ニ依リ之ヲ報告ス可シ

第六條 戶長役場及現金取扱人ニ於テ現金收支ノ時間ハ郡區役所戶長役場吏員ノ昇降時間ニ限ル可シ但シ至急ヲ要スルモノハ此限リニアラス

第二章 收入

第七條 區町村費收入ノ現金ハ郡區長ノ管理ニ係ルモノト戶長ノ管理ニ係ルモノトヲ問ハス總テ郡區長之ヲ管理ス郡區役所ニ收入ノ現金ハ現金取扱人ヲシテ戶長又ハ納人ヨリ直チニ之ヲ

收納セシム可シ但シ左ニ掲グルモノハ現金ヲ郡區役所ニ直ニ收納スルヲ不得

一 藥價處術料及入院料

一 公賣處分ニ依リ收入ノ納金

一 物品拂代及諸寄附金ノ類

第八條 區町村費ハ徵收令書又ハ納金告知書若クハ徵收書ヲ發シテ之ヲ徵收ス可シ但前條但書ニ拘クルモノ、現金ハ此限リニアラス

第九條 徵收令書ハ地價割營業割戶別割ヲ徵收スルハ納金告知書ハ郡區長ノ管理ニ係ル雜收入ヲ徵收スルトキ郡區長ヨリ戶長又ハ各納人ニ發スルモノトス

第十條 納期ヲ豫定シタルモノ、徵收令書又ハ納金告知書ハ郡長ハ其納期ノ廿日以前(納期ノ徵收ニ涉ルモノハ其初日ヨリ起算ス以下之レニ同シ)ニ區長ハ十日以前ニ隨時納期ヲ定ムルモノハ總テ其時々之ヲ發ス可シ

第十一條 徵收書ハ戶長ニ於テ第九條ノ徵收令書又ハ納金告知書ヲ受ケタルハ若クハ戶長ノ管理ニ係ル雜收入ヲ徵收スル時納期ヲ豫定シタルモノハ其納期ノ十日以前ニ隨時納期ヲ定ムル

モノハ其時々之ヲ各納人ニ發スルモノトス

第十二條 戸長ニ於テ收入ノ現金ハ納期アル者ハ其期日マテニ其他ハ一週日毎ニ之ヲ郡役所現金取扱人ニ送付ス可シ但納期又ハ一週日中ト雖モ收入ノ金額貳百圓ニ滿ルキハ其時々送付ス可シ

第十三條 戸長ニ於テ納金ヲ役場ニ收入シ及ヒ之ヲ現金取扱人ニ送付スルノ手續現金取扱人ニ於テ收入ノ手續并ニ徴收令書納金告知書徴收書ノ書式等ハ總テ地方稅收入手續及ヒ書式ニ準據ス可シ

第十四條 第七條但書ニ掲グルモノ、現金ヲ郡區役所ニ直チニ收入スルキ又ハ戸長役場ニ於テ該現金ヲ收ハスルキノ手續并ニ現金取扱人ニ於テ戸長管理ノ雜收入金ヲ收入スルキノ手續等ハ郡區長ニ於テ便宜之ヲ定ム可シ

第三章 支出

第十五條 會計年度ニ屬スル區町村費ノ支出ハ特別ノ成規ニ依リ俸給旅費等ノ前渡ヲ要スル場合ヲ除クノ外總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス可シ

第十六條 郡區長戸長ハ會計年度内ニ支拂ヲ結了セサルモノアルトキハ整理ノ爲翌年度五月二十日迄該會計年度ニ屬スル支出ヲ爲スコトヲ得

第十七條 郡區長戸長ニ於テ各款項ノ金額ヲ互ニ流用セントスルキハ其事由ヲ郡區長ハ縣廳ニ戸長ハ郡長ニ具申シ許可ヲ請フ可シ

第十八條 郡區長戸長ハ前條ノ流用許可ヲ得サル前ニ於テ豫算外ノ支出ニ係ル契約ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 郡區長戸長ハ各款項ノ金額ヲ互ニ又ハ區町村費外ノ費途ニ繰換支出ヲ爲スコトヲ得ス但行旅重病ノ救護費行倒ノ埋葬費ノ如キ成規アルモノハ此限りニ非ス

第二十條 郡區長戸長ハ會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支出ニ屬スヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 郡區長ニ於テ區町村費ノ支出ヲ爲ス時ハ其支出ヲ決定シタル書類ニ依リ仕拂切符及案内書ヲ製シ案内書ハ現金取扱人ニ送付シ仕拂切符ハ受取人ニ交付シテ領收証ヲ徴ス可シ但郡區役所々在外ノ地ニ居住スル者ニハ現金ヲ直ニ交付スルヲ得

第二十二條 仕拂切符ハ毎ニ發スヘシ數目ヲ合シテ發スルコトヲ得ス

第二十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ發付ノ日ヨリ滿三十日以内ニ於テ郡區長之ヲ定ム可シ

第二十四條 郡區長ニ於テ區町村費ヲ仕拂フノ手續及仕拂切符案内書ノ書式等ハ總テ地方稅ノ仕拂手續及書式ニ準據スヘシ

第二十五條 戶長ノ管理ニ係ル經費ハ毎月郡長ヨリ之ヲ戶長ニ交付ス可シ但毎月要セサル費用ハ戶長ノ申請ニ依リ郡長ニ於テ其時々之ヲ交付スルヲ得

第二十六條 戶長ニ於テ經費ノ仕拂ヲ爲ス時ハ總テ受取人ノ請求ニ依リ現金ヲ交付シ領收証ヲ徵シ其証書ニ依リ仕拂ノ年月日金額受取人ノ姓名等ヲ帳簿ニ記載ス可シ但現貨保管人ナシテ現金ノ仕拂ヲ爲サシムルハ第二十一條乃至第二十四條ニ準據ス可シ

第二十七條 戶長ハ毎月經費支拂報告書ヲ翌月五日限り之ヲ郡長ニ送達ス可シ

第二十八條 郡區長ハ毎三ヶ月間區町村費ノ仕拂報告書及現金受拂計算書ヲ製シ其翌月十日限之ヲ縣廳ニ送達ス可シ

區町村費收入科目表

地 款	價 割	項 價	割	解 釋
營 業	割	地 價	割	業 地方稅ヲ課スル商業
		商 地		業 地方稅ヲ課スル工業
		工 船		車 船車營業者
		料 合		
		待 理		
		芝 居		
		飲 食		
		湯 屋		
		理 人		
		雇 受		
		遊 藝		
		遊 藝		
		相 撲		
		俳 子		
		市 場		
		演 劇		
		興 行		

地方	種	補助	前々年度繰越金	前々年度繰越金
遊覽所	遊覽	遊覽		
遊技場	遊技	遊技		
遊人席	遊人	遊人		
水車	水車	水車		
乘馬渡世者	乘馬	乘馬		
畜馬	畜馬	畜馬		
業畜	業畜	業畜		
炭業	炭業	炭業		
場炭	場炭	場炭		
區盡	區盡	區盡		
區割	區割	區割		
戸別割	戸別割	戸別割		
戸別割	戸別割	戸別割		
戸長役場費雜入	戸長役場費雜入	戸長役場費雜入		
區町村會議諸費雜入	區町村會議諸費雜入	區町村會議諸費雜入		
土木費雜入	土木費雜入	土木費雜入		
救育費雜入	救育費雜入	救育費雜入		
衛生費雜入	衛生費雜入	衛生費雜入		
救助費雜入	救助費雜入	救助費雜入		
災害豫防及警備費雜入	災害豫防及警備費雜入	災害豫防及警備費雜入		
勸業費雜入	勸業費雜入	勸業費雜入		

土木費	區町村會議諸費	戸長役場費	區町村費支出科目表	土木費補助
修繕費	議員日營	需用費	項ナキモノハ款ヲ以テ	土木費補助
建築費	給書記小使給人足車馬賃等	諸費		
同修繕費	三里以上ノ地ヨリ出場スル議員ノ日營	諸費		
	戸長役場費ト同シ	諸費		
	物品運送賃借舍料等	諸費		
	役場及揭示場建築費	諸費		
	同修繕費	諸費		
	小使給人足車馬賃等	諸費		
	椅子テーブル時計書籍文筐薪炭油	諸費		
	筆紙墨料等	諸費		
	賄料物品運送賃借用品態夫賃現	諸費		
	貨品管料郵便稅電信料爲替手數料	諸費		
	廣告料借地借舍料等	諸費		



勸業委員費	警備費	サハ災害豫防費
勸業會費	消防夫給消防器械費夜番人給等	
旅費	給委員給	
諸需用費	委員旅費	
諸需用費	委員椅子テーブル筆紙墨料等	
諸需用費	今賄料郵便稅態夫費等	
諸需用費	衛生會費ニ全シ	
諸需用費	給全上	
諸需用費	費全上	
諸需用費	費全上	
獎勵費	獎勵費	農工商業獎勵費

○宮内省達第一號

明治二十一年一月十八日

博物館自今圖書寮ニ屬ス

右相達ス

○宮内省達第二號

明治二十一年一月十八日

博物館官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

博物館官制

館長 一人 奏任

評議員 無定員 勸奏任官ノ内ヨリ兼任セシム

學藝委員 五人 奏任待遇

屬 列任

○宮城縣縣令第三號

明治廿一年一月廿一日

明治十六年(七月)甲第六十三號布達ニ左ノ通追加ス

第十一條 煙草營業者ニシテ製造煙草ヲ買入タルトキハ印紙消印ノ傍ラニ楷書ヲ以テ自己ノ住所氏名ヲ彫刻セシ印章ヲ捺捺スヘシ

○宮城縣訓令第五號

明治廿一年一月廿一日

郡區

陸軍召集條例第百六十五條ノ召集旅費概算表ハ廿一年度ニ限り左ノ諸項ニ據リ取扱フ可シ  
一明治廿一年度召集旅費概算表ハ今年五月一日ヨリ廿二年四月三十日迄トス



- 一 近衛後備軍艦員兵員ハ騎、砲兵科ヲ除クノ外ハ本籍所管鎮臺ヘ召集スルモノトシ其人員及ヒ旅費金ハ鎮臺後備軍艦員兵員ノ區畫ニ合算ス可シ但召集地ハ別ニ通報ス
- 一 豫備役後備役輜重輸卒中若干ヲ近衛ニ召集スルモノトシ調製ス可シ其人名ハ別ニ通報ス
- 一 第一次概算表ハ五月一日以後現在員ヲ豫算シ其製表ハ四月十日迄ニ縣廳及ヒ國庫金出納本支所ヘ送付ス可シ
- 一 第二次概算表ハ十一月十日以後現在員ヲ豫算シ其製表ハ十月十日迄ニ縣廳及ヒ國庫金出納本支所ヘ送付ス可シ

○縣令第三號

明治廿一年一月二十一日

明治十七年(十二月)甲第九十四號布達漁業取締規則ヲ改ムルノ如シ

漁業取締規則

- 第一條 凡ソ新規ノ漁具ヲ使用シ又ハ初メテ漁場ヲ設ケントスルキハ近隣町村ノ承諾ヲ受ケ漁業組合組頭(組合ナキ地ハ之ヲ要セス)ノ連署ヲ得テ郡區役所ヘ願出許可ヲ受ク可シ
- 第二條 河海沼湖ノ水底ニ産置セル魚卵ハ總テ捕獲ヲ禁ス

第三條 左ニ掲グルモノヲ以テ漁業ヲ爲スルヲ得ス

- 一 潜水器械
  - 二 火藥類
  - 三 注毒(山椒及其他ノ藥品ヲ流下スル類ヲ云フ)
- 第四條 左ノ漁具ハ總テ使用ヲ禁ス

- 一 地獄網
- 二 五寸ノ間十七節已上ノ暗操網及鱧網
- 三 チカ子(鮑ヲ捕フルノ具)

第五條 左ノ漁具及漁業ハ其期限中之ヲ停止ス

- 一 待網(持網又ハ「モンバ」トモ云フ) 四月一日ヨリ 六月卅日マテ
- 二 簀建、簀張、篠漬 四月一日ヨリ 六月卅日マテ
- 三 鮭(魚兒モ同シ) 一月一日ヨリ 八月卅一日マテ
- 四 鱒 一月一日ヨリ 六月卅日マテ

- 五 鮎 一月一日ヨリ 六月卅日マテ
- 六 鮑 八月一日ヨリ 十月十五日マテ
- 七 海鼠 三月十一日ヨリ 六月三十日マテ

第六條 漁具ノ全水面ニ及スモノ及流域ヲ妨グルノ漁業ハ總テ之ヲ禁ス

但縣廳ニ於テ實際ニ害ナキモノト認メ特ニ使用ヲ許可シタルモノハ此限ニアラス

第七條 左ニ掲グル各川ノ川口ヨリ上流百間及川口ヨリ海面百間四方ハ毎年九月一日ヨリ十二

月三十一日マテ漁業ヲ停止ス

- 一 北上川 (石巻口及 追波口共)
- 二 阿武隈川 (荒濱口)
- 三 名取川 (閉上口)
- 四 小泉川 (小泉口)

第八條 捕魚採藻ノ業ヲ營ムモノハ其營業ニ關スル願届書ハ漁業組合組頭(組合ナキ地ハ之ヲ要セス)ノ連署ヲ要ス可シ

第九條 此規則ニ於テ禁セザルトコロノ漁具ト雖モ實際有害ノモノト認ムルキハ其使用ヲ禁スルコトアル可シ

第十條 本則第一條乃至第七條ノ規定ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第四號 明治廿一年一月廿一日

明治二十年縣令第九十三號明治二十年度地方稅追加戶數割徵收期限ヲ更正シ明治二十一年三月一日ヨリ全月十五日限リトス

○縣令第五號 明治廿一年一月廿一日

明治二十一年度地方稅徵收期限ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 明治二十一年度地方稅徵收期限

地租割

- 第一期 明治廿一年八月一日ヨリ 五分
- 第二期 全 年十一月十五日ヨリ 五分
- 第三期 全 年十二月十五日限リ 五分

營業稅雜種稅

第一期 明治廿一年六月一日ヨリ

五分

第二期 全年 年十月一日ヨリ

五分

但期限後新ニ營業スルモノ及ヒ期限前廢業スルモノハ其時々徴收シ行商ノミチナスモノハ鑑札下附ノ際全額ヲ徴收シ船車ハ國稅ノ納期ニ準シ月稅(前月末)日稅屠畜ハ前收

ス

戸數割

第一期 明治廿一年三月一日ヨリ

六分

第二期 全年 年五月一日ヨリ

四分

但期限前他ニ轉居スルモノハ其時々徴收ス

○縣令第六號

明治廿一年一月廿一日

他人ノ製造シタル印章木版銅版活字版類ヲ購入シ卸小賣ヲ爲サントスルモノハ其種類及個數並ニ製造人ノ屬籍住所氏名ヲ詳記シ所轄警察署ニハ分署ニ届出可シ違フモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○縣令第七號

明治廿一年一月廿四日

明治十二年(七月)甲第百九號布達製氷及販賣取締規則ヲ改ムルノ如シ

製氷及販賣取締規則

第一條 飲料ニ供スル爲メ製氷ノ出願アルキハ販賣ト自用トニ拘ラス其水質ヲ試驗シ製氷場及貯藏場ヲ検査シ無害ノモノニ非レハ之ヲ許サス

第二條 飲料ニ供スル爲メ製氷セントスル者ハ左ノ二項ヲ取調毎年十一月廿日限り戸長(區ハ區長)ノ奥書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出ヘシ

一 製氷及貯藏ノ方法

製氷場及貯藏場ノ位置圖面

第三條 願濟ノ製氷場及貯藏場ヲ變更セントスルキハ其事實ヲ具シ前條ノ手續ニ依リ願出検査ヲ受ケヘシ

但前條第一項ノ取調ヲ要セス

第四條 願濟ノ製氷場及貯藏場ヲ修理シタルキハ其事實ヲ具シ戸長 區ハ區長)ノ奥書ヲ受ケ郡

役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第五條 願濟ノ製氷ヲ發賣セントスル者ハ其貯藏ノ量目ヲ記シ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出檢査ヲ受クヘシ

但檢査ノ成績善良ナルモノニハ第一號書式ノ檢査証ヲ附與スヘシ

第六條 製氷場ハ人家道路下水溝等ニ接近セサル場所ニシテ厚板ヲ以テ區畫ヲ設ケ汚水ノ滲透ヲ防キ且塵埃ノ混入ヲ防止スヘキ構造ヲナスヘシ

第七條 製氷人其貯藏場外ニ於テ販賣セントスル者ハ第二號書式ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ヘ願出檢印ヲ受ケ店頭ヘ掲出スヘシ

第八條 製氷人ニアラスシテ卸賣ヲナスモノハ第三號書式ノ看板ヲ製シ本條ノ手續ニヨレヘシ但製氷人ヲ行商セントスルモノハ第四號書式ノ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ヘ願出檢印ヲ受クヘシ

但本條ノ木札ハ毎年十月卅一日限り所轄警察署又ハ分署ヘ願出消印ヲ受クヘシ

第九條 行商者ハ純白ノ毛布又ハ綿布ヲ以テ氷塊ヲ包裹シ之ヲ清淨ナル器物ニ入レ其容器ニハ

第五號書式ノ目標ヲ附スヘシ

第十條 製氷場貯藏場及販賣免許ノ期限ハ毎年十二月一日ヨリ翌年十一月三十日限リトス

第十一條 製氷場又ハ貯藏場ヲ廢シ若クハ貸借讓與シタル者ハ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第十二條 製氷檢査證及行商鑑札ハ貸借讓與スルヲ許サス

第十三條 他府縣ヨリ輸入ノ氷雪ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳許可ノ證ヲ添ヘ第五條ノ手續ニ依リ願出檢査ヲ受クヘシ

但縣内ニ於テ貯藏シタル氷雪又ハ他府縣ヨリ輸入ノ氷雪ヲ府縣ヘ輸出セントスル者ハ其量目ヲ記シ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十四條 醫療及雜用ノ爲メ氷雪ヲ貯藏シ販賣セントスル者ハ其量目ヲ記シ戶長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ

第十五條 第一條第二條第三條第四條第五條第七條第八條第十條第十一條第十二條ハ雪ヲ貯藏シ飲料ニ供セントスル者ニ適用シ第八條但書第九條第十條第十一條第十二條ハ之ヲ販賣セントスル

者ニモ之ヲ適用ス

第十六條 第二條第三條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 第四條第八條第九條第十條第十三條第十四條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第一號 六寸五分

製氷検査証

郡區町村番地	製氷人	氏名
郡區町村字何々		
郡區町村番地或ハ字何々		
製氷場		
貯藏場	成分	
清濁		
色		
反應		
格魯兒		

田中因忠

硫酸  
土類  
硝酸  
亞硝酸  
安母尼亞  
有機物  
右之成績ナルヲ以テ飲料ニ害ナキヲ証ス  
明治 年 月 日

宮城縣

第二號

第三號

○ 何地製氷賣捌所  
製氷人 氏名

○ 何地製氷卸小賣所  
郡區町村製氷人 氏名  
卸小賣人 氏名

第四號 堅三寸五分

○ 製氷行商鑑札

分五寸二橫

年月日  
○ 何 警 察 署 印

何縣何國何郡何村番地  
氏名

第五號

○何地製氷  
郡區町村  
製氷人氏名

○縣令第八號

明治廿一年一月二十一日

明治二十年十二月縣令第九十六號縣會議員撰舉會開設期日ハ癸卯二月十五日迄延期ス

○遞信省訓令第一號

明治二十一年一月十九日

北海道廳 府縣

西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金ハ來明治廿一年度ヨリ各廳ノ歲入トシテ整理スヘシ  
但一周歲用紙拂下高ハ別表書式ニ倣ヒ調製ノ上翌年度十二月三十日限り當省へ報告スヘシ  
別表書式

明治何年度中西洋形船海員雇入雇止證書用紙受拂明細表

廳名

種別	越	高	受取高	小計	拂下高	拂下代金	滯役場控無 代支拂高	殘高
大雇入證書用紙								
小雇入證書用紙								
雇止證書用紙								
總計								

○大藏省訓令第四號

明治二十一年一月二十四日

廳 府縣

歲入下戻金ノ内當該年度ノ歲入ヨリ下戻承認ヲ得仕拂切符發付シタルモノニシテ出納閉鎖ノ期ヲ過キ現金受取未済ノモノアルトキハ彙ノ計算書番號年度科目金員及國庫金出納所名トモ詳記シ承認取消ノ義稟申スヘシ

○縣令第九號

明治廿一年一月廿五日

明治二十一年度備荒儲蓄金方法縣會ノ議定ヲ經内務大藏兩大臣ノ許可ヲ得テ定ムルヲ左ノ如シ

明治二十一年度備荒儲蓄金方法

第一條 備荒公儲金ハ地租百分ノ二分二厘ニ當ル金額ヲ徵收スヘシ

第二條 公儲金徵收期限ハ明治二十一年十一月十五日ヨリ十二月十五日限リトス

第三條 儲蓄金ハ配布金ト公儲金トヲ合セ第十三條乃至第十五條ノ經費ヲ扣除シ其殘額ヲ公債證書ニ交換スヘシ

第四條 公債證書ハ縣廳ニ從來ノ儲蓄米穀ハ左ノ場所ニ儲蓄スヘシ

刈田郡白石本郷 柴田郡大河原驛 伊具郡角田本郷 亘理郡亘理驛 名取郡増田驛

仙臺區若林 仙臺區鏡砲町 黒川郡吉岡驛 加美郡中新田驛 玉造郡岩田山驛

志田郡古川驛 遠田郡涌谷驛 栗原郡荒谷驛 栗原郡宮野村 栗原郡大岡村

登米郡佐沼驛 登米郡淺水村 桃生郡鹿又驛 牡鹿郡石巻村 本吉郡志津川驛

本吉郡氣仙沼驛 合二十一ヶ所

第五條 蓄穀ハ秋季ニ至リ其年ノ豐凶ヲ觀察シ新舊穀ノ詰替ヲナスコトアルヘシ

第六條 公債證書又ハ米穀ヲ金ニ換ヘ支出シタル殘額ハ渾テ縣廳ニ儲蓄スヘシ

第七條 食料ヲ給スルノ制限ハ左ノ各款ニ據ルヘシ

但金ヲ以テ給與スルルハ該所下米相場ニヨルヘシ

第一款 水火風震ノ災ニ罹リ家産蕩盡流失シ目下飢餓ニ迫ル者ハ男一人一日玄米三合(粃并ニ麥ハ六合雜穀ハ九合)女一人一日玄米二合(粃并ニ麥ハ四合雜穀ハ六合)ノ積ヲ以テ三十日以内救助スヘシ

但七十歳以上十五歳未満ノ男ハ女ノ割合ヲ以テ給スヘシ

第二款 非常ノ凶荒又ハ流行病ノ爲メ目下飢餓ニ迫ル者モ第一款ヨリ救助スヘシ

第三款 戸數五十以上一時ニ暴災ニ罹リ目下飢餓ニ迫ル者ハ五日以内焚出米ヲ給與スヘシ尤

モ其給與セシ日數ハ第一款ノ日數ヨリ扣除スヘシ

但戸數五十以内ト雖モ全村全市罹災ノ場合ニ於テハ給與スルコトアルヘシ

第八條 小屋掛料ハ第七條第一款ノ究民ニ限り一戸ニ付金十圓以内ヲ給與スヘシ

但借家或ハ同居ノ者ハ此限ニアラス

第九條 農具料ハ第七條第一款ノ究民ニ限り家族(耕耘ニ從事シ得ヘキ者)三人未満ハ金五圓以

内同上三人以上五人未満ハ金七圓以内同上五人以上ハ金十圓以内ヲ給與スヘシ

第十條 種穀料(自作スヘキ米粟蕎麥ノ種代)ハ第七條第一款ノ究民ニ限り一戸金十圓以内ヲ

給與スヘシ

第十一條 地租ヲ補助及貸與スルノ制限ハ左ノ二款ニ據ルヘシ

第一款 非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リ土地家屋ヲ賣却スルニ非テサレハ地租ヲ納ムル能ハサルモノニハ五ヶ年以内ノ年賦ヲ以テ其地租ニ充ツル金額ヲ貸與スヘシ

第二款 貸與年期中重テ災害ニ罹リ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサルモノニハ其地租ニ充ツル金額ヲ補助スヘシ

但地租ヲ補助セシ年ハ第一款ノ年期中ニ算入セス

第十二條 地租貸與金年賦返納ノ期限ハ二月一ヨリ同月廿八日迄トス

但年賦返納期限内ニ土地家屋ヲ賣却スルキハ其貸與ノ金額ヲ一時ニ返納スヘシ

第十三條 米穀儲蓄ノ倉庫ハ番人各二員以下ヲ置キ一員年金十二圓以内ヲ給與スヘシ

第十四條 枿取及其他ノ人足ハ日給金三十錢以内ヲ以テ雇入ルヘシ

第十五條 第十三條第十四條ノ經費及借庫料其他諸般ノ費用ハ儲蓄金ヨリ支辨スヘシ

第十六條 儲蓄金穀ノ出納ハ翌年十二月之ヲ管内ニ報告スヘシ

○勅令

明治二十一年一月二十一日

朕明治十五年度ノ歳計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二號

明治十五年度歳計決算

歳入

經常歳入

第一款 租 税金六千七百七十三万八千五百三十五圓三十八錢五厘

第一項 海關 税金三百六十一万三千二百九十圓九十三錢五厘

第二項 地 税金四千三百三十四万二千八百八十七圓八十七錢六厘

第三項 鑛山 税金一万八千八百五圓八十五錢九厘

第四項 北海道物産 税金八十六万四千七百一十一圓七十三錢五厘

第五項 酒造 税金千六百三十三万九千六百二十三圓五十七錢九厘



第六項 稽 翅 營 業 稅 金四万七千二百圓四十錢

第七項 煙 草 稅 金二十八万八千四百九十九圓四十錢九厘

第八項 證 券 印 紙 諸 稅 金八十七万二千七百九十四圓四十七錢七厘

第九項 郵 便 稅 金百六十一万二千九百八十四圓八分二錢四厘

第十項 訴 訟 課 紙 諸 稅 金十六万六千九百十六圓三十七錢五厘

第十一項 代 言 免 許 料 金二万三百七十圓

第十二項 船 稅 金十三万五千二百十九圓四十五錢四厘

第十三項 車 稅 金四十五万三千八百六十九圓十八錢三厘

第十四項 會 社 稅 金四十三万五千九百七十四圓四十五錢七厘

第十五項 鈔 據 稅 金八万一千八百九十二圓十五錢

第十六項 牛 馬 賣 買 免 許 稅 金八万七千七百九十九圓六十四錢六厘

第十七項 賣 藥 稅 金三十六万四千九百四十二圓四錢二厘

第十八項 度 量 衡 稅 金二千四百二十九圓二十二錢一厘

第十九項 版 權 免 許 料 金四千三百七十五圓九十五錢九厘

第二十項 海 外 旅 券 其 他 免 許 手 數 料 金四千四百九十九圓六十九錢二厘

第二十一項 舊 稅 退 納 金四千四百二十八圓十二錢三厘

第二款 作 業 益 金 金百八十二万八千二百十二錢六厘

第一項 內 務 省 製 藥 金千二百二十八圓七十九錢八厘

第二項 大 藏 省 造 幣 金四十六万二千六百六圓七十八錢一厘

第三項 陸 軍 省 兵 器 製 造 金二百十三圓三十九錢六厘

第四項 海 軍 省 造 船 金千三百二十六圓二十八錢七厘

第五項 海 軍 省 石 炭 金四千八十圓四十八錢七厘

第六項 農 商 務 省 鑛 山 金千七百五十七圓二十九錢八厘

第七項 農 商 務 省 鐵 道 金一万五千五百五圓八十二錢二厘

第八項 農 商 務 省 製 作 金六万四千六百六十二圓六十五錢

第九項 工 部 省 鑛 山 金二十七万五千九百三十八圓七十二錢九厘

第十項 工部省 鐵道 金九十一萬三千八百四十五圓九十五錢九厘

第十一項 工部省 電信 金九萬五千四百一十一圓九十一錢四厘

第十二項 工部省 工作 金七百四圓十四錢八厘

第十三項 工部省 採油 金六十九圓八十三錢三厘

第十四項 廣東 縣礦山 金百二十圓二錢四厘

第三款 雜收 入金三十二萬二千三百三十五圓六十三錢三厘

第一項 森林 收入 金七萬六千二百二十五錢六厘

第二項 官有物 貸下料 金六萬二千四百四十九圓六十八錢二厘

第三項 開(市港)場官地貸下料 金八萬三千八百八十三圓六十九錢五厘

經常歲入合計金六千九百八十八萬八千八百七十三圓十四錢四厘

臨時歲入

第一款 諸返 納金四十一萬五千五百六十圓九錢

第一項 諸貸出 金返納 金二十九萬二千九百九十九圓三十四錢七厘

第二項 官方及舊藩藩貸金返納 金十一萬九千九百九十六圓七十三錢九厘

第三項 石高貸下返納 金一萬一千六百四十四圓四厘

第二款 雜收 入金三百二十萬七千九百九十三圓九十九錢七厘

第一項 官有物 拂下代 金五十四萬五千七百三十六圓八十錢六厘

第二項 雜 入金二百六十六萬二千二百五十七圓十九錢一厘

臨時歲入合計金三百六十一萬九千五百五十四圓八錢七厘

歲入總計金七千三百五十七萬八千四百二十七圓二十三錢一厘

歲出

經常歲出

第一款 國債 還金八百二十九萬三千六百六十九圓七十一錢三厘

第一項 內國債 還金四百五十四萬九千九百八十八圓二十八錢四厘

第二項 外國債 還金四十五萬二千五百七十一圓四十二錢九厘

第三項 紙幣 銷却 金三百三十萬圓

第二款 國債利子並雜費 金千五百十二萬二千二百九十一圓四十七錢九厘

第一項 內國債利子 金千四百三十八萬三千二百五十九圓九十五錢七厘

第二項 內國債雜費 金八千八百五十圓九十三錢

第三項 外國債利子 金七十二萬三千八百三十四圓四十三錢

第四項 外國債雜費 金六千三百五十五圓十六錢二厘

第三款 帝室及皇族費 金百七十八萬八千七百二十一圓

第四款 年金恩給諸祿 金七十七萬七千六百八十七錢九厘

第一項 賞勳 金十四萬七千七百八十一圓七十三錢三厘

第二項 軍人恩給 金十四萬二千十四圓十七錢五厘

第三項 社寺祿 金二萬六千四百九十圓九十錢五厘

第四項 西南從軍輩一時賜金 金二十七萬六千七百八十五圓

第五項 沖繩縣土族金祿 金十一萬三千九百三十五圓六錢六厘

第五款 官省院局費 金二千三百六十五萬八千九百九十七圓九十二錢八厘

第一項 太政官 金六十二萬四千二百三十二圓

第二項 外務省 金十九萬五千二百十圓

第三項 內務省 金五十七萬二千二百二十五圓

第四項 大藏省 金六十七萬二千七百九圓

第五項 陸軍省 金八百五十八萬八千六百十六圓七十九錢一厘

第六項 海軍省 金三百十六萬四百九十二圓

第七項 文部省 金九十三萬五千三十五圓

第八項 農商務省 金百六萬四千四百七十圓二十三錢九厘

第九項 工部省 金四十六萬八千二百九十四圓

第十項 司法省 金二百七萬五百五十六圓

第十一項 宮內省 金三十九萬五千六百三十三圓

第十二項 元老院 金十九萬二千六百九十八圓九十三錢七厘

第十三項 在外公館 金五十三萬八千九百九十五圓

第十四項 租 稅 局 金百七十五萬五千五百四十八圓六十一錢二厘  
 第十五項 關 稅 局 金二十萬八千七百八十二圓三十四錢九厘  
 第十六項 關 稅 局 金二百二十七萬六千三百圓  
 第六款 營業 額 補 填 金二十四萬六千六百七十二圓七十三錢五厘  
 資本 做 額 補 填 金千二百二十八圓七十九錢八厘  
 第一項 內 務 省 製 藥 金千二百二十八圓七十九錢八厘  
 第二項 農 商 務 省 鑛 山 金五十一圓八十二錢一厘  
 第三項 農 商 務 省 製 作 金一萬五千七百二十四圓四十一錢六厘  
 第四項 工 部 省 鑛 山 金二十萬三千七百七圓七十錢  
 第五項 工 部 省 工 作 金二萬圓  
 第七款 營 繕 土 木 費 金九十三萬六千八百八十八圓六十七錢四厘  
 第一項 營 繕 金七萬七千五百五十五圓八十七錢四厘  
 第二項 土 木 金八十五萬九千七百三十二圓八十錢  
 第八款 府 縣 費 金四百五十七萬六千四百七圓七錢二厘

第九款 警 察 費 金二百三十九萬三千六十圓六錢二厘  
 第一項 警 視 廳 金三十九萬二千二百五十八圓  
 第二項 三 府 各 縣 金二百萬八千二百四十六錢二厘  
 第十款 集 治 監 金五十一萬九千二百四圓三十四錢二厘  
 第一項 東 京 集 治 監 金四萬五千九百九十三圓  
 第二項 宮 城 集 治 監 金三萬七千七百六十六圓九十二錢九厘  
 第三項 三 池 集 治 監 金四萬八千八百一十一圓六十四錢七厘  
 第四項 樺 戶 集 治 監 金十七萬三千三百八十二圓十八錢一厘  
 第五項 空 知 集 治 監 金九萬九千二百三十四圓九十四錢六厘  
 第六項 在 府 縣 獄 囚 徒 費 金十六萬五千五百六十三錢九厘  
 第十一款 神 社 費 金十五萬二千二百九十九圓七十一錢六厘  
 第十二款 儲 蓄 金百二十萬圓  
 第十三款 雜 支 出 金十六萬四千三百六十七圓二十六錢三厘

第一項 皇城周圍修繕費 金五千十三圓三厘  
第二項 雜 出 金十五万九千三百五十四圓二十六錢

經常歲出合計金五千九百七十五万七千二百六圓八十六錢三厘

臨時歲出

第一款 興 業 費 金百十二万五千九百六十三圓三十八錢一厘

第一項 陸軍省兵器製造 金十七万三千三百四十八圓

第二項 海軍省 艦 渠 金十三万七千七百二十圓十八錢八厘

第三項 海軍省 火藥 金十一万七千四百四十二圓二十六錢一厘

第四項 農商務省 製作 金七千八百八十圓八十錢二厘

第五項 工部省 鑛 山 金十九万五千二百九十九圓九十二錢

第六項 工部省 鐵 道 金三十七万二千圓

第七項 工部省 電 信 金十万九千九百四十九圓八十五錢四厘

第八項 工部省 工 作 金二万七千二百三十五錢六厘

第二款 營業資本及繰替金 金六百十二万二千二百四十圓四十錢三厘

第三款 朝鮮事件 費 金百三十五万八千八百八十一圓二十四錢八厘

第四款 雜 支 出 金五百十二万三千八百五十四圓六十六錢八厘

第一項 宮殿御造營費 金四十四万七千七百五十圓一錢五厘

第二項 北海道監獄建築費 金六万八千三百四十四圓二十九錢八厘

第三項 砲臺建築費 金二十四圓

第四項 神宮式年御造營費 金三万五千五百六十九圓三十七錢三厘

第五項 紙幣改造費 金三十九万七千三百九十八圓七十二錢四厘

第六項 日本鐵道會社補助金 金八万五千七百五十九圓四十二錢五厘

第七項 雜 出 金三百八十五万六千五百四十二圓八十三錢三厘

臨時歲出合計金三千三百七十二万九千九百三十九圓七十錢

歲出總計金七千三百四十八万六千六百六十六圓五十六錢三厘

○宮城縣訓令第六號

明治廿二年一月二十七日

郡區町村

明治廿年(四月)訓令第三十七號陸軍召集事務取扱細則ニ左ノ通追加ス

第廿四條 區戸長ハ歸休兵並豫備後備役驅員兵員家宅ノ門戸嚮往察ヨリ見易キ場所ニ平常標札  
(第九様式)ヲ掲ケ置カシム可シ

第九様式 凡七寸

ハ	何年徵兵歸休
何年豫備(後備)役兵種	
板川	姓
第何番	名

○歸休兵ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リシトキハ速カニ肩書ヲ改書セシムベシ  
○番號ハ籤番號ヲ云フ

○驅員ノ記載方ハ兵種番號ヲ除キ姓名ノ上ニ官名ヲ冠記シ且肩書ハ何年豫備(後備)役

驅員ト記サシムベシ

○内務省令第一號 明治二十一年二月二十四日

出版條例版權條例脚本樂譜條例並寫真版權條例ニ關スル願届手續等左ノ通之ヲ定ム

第一條 凡願届書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ

第二條 凡文書圖書ヲ印刷スル者ハ出版條例第七條ニ從ヒ其印刷竣功ノ年月日並住所氏名ヲ記

載シ其之ヲ發行スル者ハ同條例第三條ニ從ヒ届出ノ年月日並其住所氏名ヲ記載ス可シ

第三條 出版届ハ第一書式再(三)版届ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式寫真版權登錄願ハ第四

書式版權登錄再度下付願ハ第五書式ニ依ル可シ

第四條 專ラ學術技藝ノ雜誌ニシテ出版條例第二條但書ニ從ヒ同條例ニ依ラント欲スル者並第

九條但書ニ依リ届出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第六書式ニ依ル可シ

第五條 版權條例第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第七書式ニ

依リ豫メ二回以上出版ノ分隨意取束テ版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條 外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ

以テ認メ届書ニ添付ス可シ

第七條 版權登錄料並登錄證再度下付手数料東京ニ在テハ大藏省金庫局其他ノ地方ニ在テハ國

庫金出納本支所へ預ケ入レ其預證書ヲ願書ニ添ヘ納付ス可シ  
第八條 版權登錄願ヲ許可スルトキハ第八書式寫眞版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式ノ證  
書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スルモノハ本證書ノ原本ニ其事由並下付ノ年月  
日ヲ裏書シ内務省ノ印ヲ捺ス

第一書式 (用紙美濃)

出版御届

一書名 全何冊(枚) 又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) 自第何號 至第何號

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ今般出版條製本三部  
相添此段御届申上候也

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地

年月日

發行者 氏 名 印

同上

著作者(相續者) 氏 名 印

第二書式 (用紙同上)

内務大臣(爵)何誰殿

再版御届

一書名 全何冊(枚) 又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚) 自第何號 至第何號

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)ノ書ニシテ何年何月何日出版セシ處改正(増減、注釋、附録、  
繪圖等)ヲ加ヘ今般再(三)版條製本三部相添此段御届申上候也

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地

年月日

發行者 氏 名 印

同上

著作者(相續者) 氏 名 印

内務大臣(爵)何誰殿

第三書式 (用紙同上)

版權登錄願

一書名 全何冊(枚) (又、何冊(枚)ノ内何冊(枚) 自第何號 至第何號)  
右今般出版致條版權登錄被下度六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)  
預證書相添此段相願候也

年月日  
道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地  
版權所有者ノ 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

第四書式 (用紙同上)

寫真版權登錄願

一物象ノ名 何枚

右何々ノ異形ヲ寫シタルモノニテ今般發行致度條版權登錄被下度身本二葉並六葉ノ定價金  
何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所) 預證書相添此段相願候也

年月日  
道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地  
版權所有者ノ 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

第五書式 (用紙同上)

(寫真)版權登錄證再度下付願

(寫真)版權登錄證第何號  
一書名(物象ノ名)全何冊(枚) (又、何冊(枚)ノ内何冊(枚) 自第何號 至第何號)

右何年月日版權登錄御許可ヲ受タル處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄證更ニ御下付被下  
度手數付金五十錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所) 預證書相添此段相願候也

年月日  
道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地  
版權所有者ノ 氏 名 印

內務大臣(爵)何誰殿

第六書式 (用紙同上)

學術(技藝)雜誌出版條例ニ依リ出版(并手續省略)願

一書名



右專ヲ何々ノ學術(技藝)ニ關スル事項ヲ記載シ毎月何回(又ハ何々ノ日ヲ以テ)發行致スヘキモノニ候處出版條例ニ依リ出版(致シ且同條例第三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都度御届ニ不及發行前製本ノミ相納候様)致度此段相願候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地

發行者 氏 名 印

同上

編輯者 氏 名 印

內務大臣(簽)何誰殿

第七書式 (用紙同上)

學術(技藝)雜誌版權登錄手續省略願

一書名

右出版條例ニ依リ出版致度旨今般(何年月日)御許可ヲ得候處自第何號至第何號何冊分一特版權登錄下度各號六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此

段相願候也

年月日

道廳何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地

發行者 氏 名 印

同上

編輯者 氏 名 印

內務大臣(簽)何誰殿

●ハ朱

第八書式

版權登錄之證

印割 書名 何冊

著作者 氏 名

版權所有者 氏 名

右第 號ヲ以テ版權登錄簿ニ登錄ス

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

印割 治 年 月 日 內務省印

明治 年 月 日

内務省

印

同上謄本裏書式

第九書式

寫眞版權登錄之證

割印

寫眞ノ名 何枚

版權所有者 氏名

右第 號ヲ以テ寫眞版權登錄簿ニ登

録ス

明治 年 月 日

内務省

印

同上謄本裏書式

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ  
此謄本ヲ下付ス

割印

明治 年 月 日

内務省印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

○宮城縣訓令第七號

明治廿一年一月廿八日

郡區町村

昨二十年一月ヨリ十二月ニ至ル水産物統計表左ノ様式ニ據リ調査ヲ遂ケ各町村ノ分ハ二月限り  
郡役所へ差出シ郡區役所ニ於テ之ヲ精査統計シ各町村ノ調査ヲ添へ三月十五日限り縣廳へ差出  
ス可シ

水産物統計表調査心得書

一此統計ハ明治二十年一月ヨリ十二月マテノ收穫高ヲ掲グルモノトス

一此統計ハ一村一郡ノ二様ニ區別スヘシ

但聯合町村及聯合郡ハ各町村各郡ニ區別スヘシ區ハ各町ヲ區別スルニ及ハス

一本表ニ掲クル海水産物ノ統計ハ生鮮物ト製造物トヲ問ハス現收穫物ノ總計ヲ掲記スヘシ

一本表數量ノ部ニハ箇數斤數ヲ并記スルヲ本旨トスレトモ之ヲ區別シ難キモノハ一項目ヲ掲ク  
ヘシ

一此統計ニ掲クル品名ニ悉ク傍訓ヲ付スヘシ

一様式中漁戶漁人漁舟ノ三箇ヲ掲グルモノハ其收穫ニ比例シ漁利ノ多少ヲ別ダンガ爲ナリ

●前件漁人ト稱スルハ漁家中男女ヲ問ハス實際漁業ニ從事スルモノ云フ  
 一此統計ノ調査ハ飽マテ精密ナルヲ要ス故ニ雜魚雜介雜藻等ノ名稱ヲ少ナクシ成ヘシ現品ヲ明  
 記スヘシ

一收獲物ノ統計ハ毎戸ニ就キ之ヲ調査スルチ本旨トスレトモ若シ右ノ手續行ハレ難キ事情アレ  
 ハ其村ノ大小ニ應シ十戸若クハ十五戸宛一名ノ委員ヲ立テ之ヲ評定セシムルモ妨ケナシトス  
 一此統計ハ客年三月訓令第二十五號農商通信事項第四十三乃至四十八ノ諸表ト重複スル事項ア  
 ルモ計表全体ノ關係ヲ明カニスル爲メ仍之ヲ記載スルヲ要ス但其事實ハ該諸表ニ照合シテ組  
 歸ナカラシムヘシ

海水産物統計表

漁戸 專業——戸 合計——戸  
 兼業——戸  
 漁人 專業——人 合計——人  
 兼業——人  
 漁舟——隻

何郡區 又ハ何郡何村

品目	量		代價
	筒數	斤數	
品目	筒數	斤數	代價
何	何	何	何
何	何	何	何
何	何	何	何
何	何	何	何
合計	何	何	何

平均配當 漁戸一戸ニ付金——圓  
 漁人一名ニ付金——圓  
 淡水産物統計表

何郡區 又ハ何郡何村



印刷所 同

住所

一 發行人

氏 名

何年何月生本月何年何箇月

一 編輯人

氏 名

何年何月生本月何年何箇月

各部門ニ主任編輯人ヲ設クルルキハ茲ニ列記スヘシ

同

一 印刷人

氏 名

何年何月生本月何年何箇月

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若シハ國立銀行ノ預リ手形公債證書ヲ以テ)管轄廳ヘ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納ムルニ及ハサルモノ、例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人 氏

名印

内務大臣某殿

題號變更届書式

何新聞改題届

何新聞改題

一 何新聞

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年 月 日

發行人 氏

名印

内務大臣某殿

種目變更届書式

何新聞記載ノ種目變更届

一現今種類 政治、法律、農工商業其他何々

一變更種類 何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メス發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要スル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付保證金何圓(若シハ國立銀行ノ預リ手形公債證書ヲ以テ)管轄廳へ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メ發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要セサル種類ニ變更スルモノ、例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保證金御下渡之儀ハ管轄廳へ可申出候間此段御届申上候也

年月日

內務大臣某殿

發行人 氏 名印

發行人變更届書式

何新聞發行人變更届

何新聞是迄何誰發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致候ニ付此段御届申上候也

(發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタルモノ、例ハ左ノ如シ)

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去(若シハ法律上ノ資格ヲ失ヒ)候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月日ヨリ何誰ニ於テ(以下前例ニ同シ)

年月日

舊發行人 氏 名印

(發行人死去ノ時ハ其遺族親戚等ト新發行人ト連署ス)

住所

新發行人 氏 名印

內務大臣某殿

編輯人印刷人變更届書式

何新聞編輯人(又ハ印刷人)變更届

舊編輯人(又ハ舊印刷人) 氏名

住所

新編輯人(又ハ新印刷人) 氏名

何年何月生本月何年何箇月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

内務大臣某殿

發行人 氏 名 印

時期變更届書式

何新聞發行時期變更届

一何年何月何日發行、第何號マテハ隔日(若クハ毎月一回又ハ何々)

一何年何月何日發行、第何號ヨリ改メ毎日(若クハ毎週又ハ何々)

右之通變更致候間此段御届申上候也

年月日

内務大臣某殿

發行人 氏 名 印

發行所變更届書式 印刷所變更届書

モ亦本例ニ依ル

何新聞發行所變更届

一舊發行所

何社 社號ナキモノハ  
戸主ノ氏名

府縣國郡區町村番地

何社 社號ナキモノハ  
戸主ノ氏名

一新發行所

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

年月日

内務大臣某殿

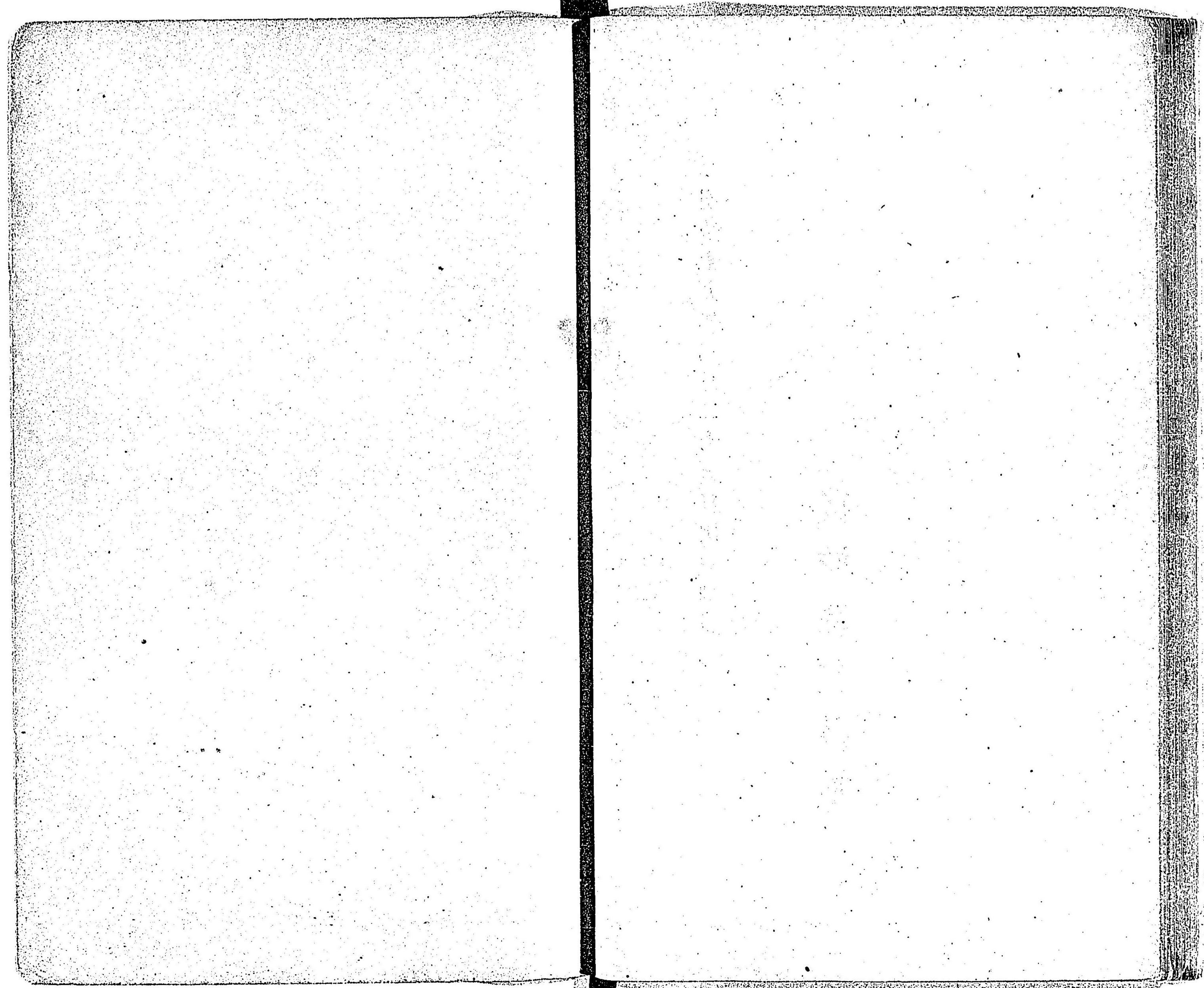
發行人 氏 名 印

明治十九年三月二十六日出版御届

廿五

宮城縣文書課





明治二十一年二月分

法令類纂  
第二號

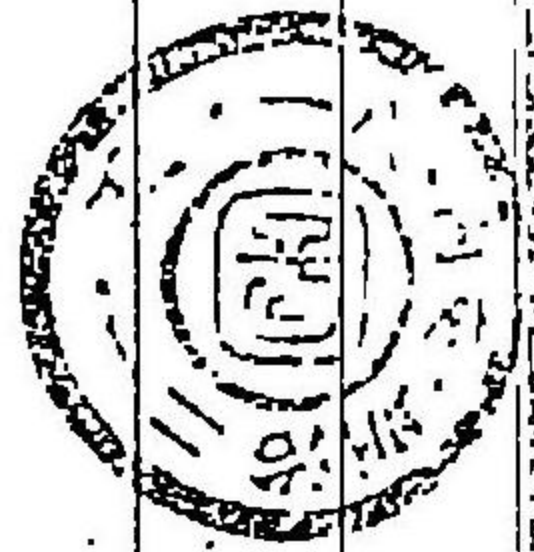
宮城縣文書課

No 9178

一本書ハ毎月初其前月中奥羽日々新聞紙官報縣報欄内ニ掲載シタル諸法令ヲ編纂スルモノトス  
但告示諸達中一時ニ止マリ後來ノ參照ヲ要セサルモノハ其要領ヲ目錄欄内ニ摘記シ圈點ヲ  
冠シテ之ヲ區分シ別ニ全文ヲ掲載セス  
一本書ハ從來例規目錄ニ從テ類目編纂セシト雖モ時日甚ダ遷延ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ唯ダ  
其目錄ノミ類別シ其下ニ丁數ヲ付シ本文參照ノ便ニ供ス  
一伺指令照會通知并ニ報告類ト雖モ必要ト認ムルモノハ亦ダ其部類中ニ併セ録シテ以テ參考ニ  
唯供ス

○法令類案目録 明治二十一年

附省官制官規



海軍醫務部海軍會計檢査部ニ廢シ海軍省會計局ニ檢査課ヲ置キ又司局中監費課ヲ廢シ其事務ヲ整理課ニ屬セシム

十五丁

木曾大林區署ノ名稱及位置ヲ定ム

二十一丁

陸軍下士官採用細則

百七丁

府縣會

宮城縣訓令 二十五日 臨時縣會ヲ開設ス

五十丁

圖書出版 新聞雜誌曆

內務省令 六二日 米國ニ於テ發行スル新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁止ス

十九丁

兵制

海軍省令 第二號	明治二十年一月第三號海軍下士卒家族扶助金給與規第一條更正ス	二十丁
本縣告示 第四號	海軍兵學校生徒召募ノ件	四丁
陸軍省令 第一號	現役輜重輸卒入營及郷里服役ノ件	七九丁
全縣告示 第一號	明治二十一年陸軍各兵科現役士官候補生及陸軍幼年學校生徒召募檢査格例全志願者心得並ニ取扱手續ヲ定ム	二十一丁
宮城縣訓令 第十一號	明治廿年四月訓令第卅七號陸軍召集事務取扱細則第十號ヲ改ム	十五丁
全縣訓令 第十二號	明治十九年七月乙第四十二號徵發事務取扱手續第三條ヲ改ム	十九丁
本縣告示 第八號	明治二十一年度陸軍各兵科現役士官候補生及陸軍幼年學校生徒志願書差出スヘキ期日ヲ定ム	三十九丁
陸軍省告示 第二號	陸軍部測量局修技生檢査格例及志願者心得ヲ示ス	四十一丁
海軍省令 第一號	海軍下士以下給與規則中ヲ追加ス	
海軍省令 第一號	海軍下士以下給與規則中ヲ改正ス	
陸軍省令 第一號	召集旅費概算取扱手續中ヲ追加ス	百六丁
宮城縣訓令 第十四號	本縣徵兵事務取扱手續第二十九條ヲ改正ス	九十六丁
宮城縣訓令 第十五號	本年訓令第五號召集旅費概算取扱手續中追加ス	百十四丁

學制

農商務省告示 第一號	東京農林學校校則第二十八條第二十九條ノ卒業證書又ハ證明書ヲ有スル者ト雖モ英語學ハ試驗スルモノトス	二十一丁
宮內省達 第三號	明治十九年八月本省達第十號學習院規則第十三條ヘ一頂ヲ追加ス	五十二丁
宮城縣訓令 第十三號	明治二十一年度以降小學校經費豫算之儀ハ認可ノ後區町村會ニ於テ變更増減ヒシキハ届出ツヘキ旨ヲ示ス	三十九丁
勅令 第四號	陸軍大學校條例中ヲ改正ス	百四丁
勅令 第五號	陸軍戶山學校條例中ヲ改正ス	百五丁
縣令 第十七號	明治十九年(九月)縣令第二十四號小學校簡易科教員免許規則第九條ニ但書ヲ追加ス	百七丁
全縣令 第十八號	全年八月縣令第二十五號小學校授業生免許規則第十二條ニ但書ヲ追加ス	百七丁

地所地券

大藏省訓令 第六號	廿八日	報告表中開墾地荒地異動表調製方ヲ示ス	四丁
--------------	-----	--------------------	----

大藏省訓令 十二月 地券取扱順序中未項廢止

九十六丁

船車

遞信省告示 十二月 西洋形船ニ信號符字點付

郵便

遞信省告示 十一月 武藏國橫濱電信局石川郵便支局移轉改稱

遞信省告示 十二月 近江國北岐野郵便局廢止

同 十二月 出雲國森山郵便局外二十二局廢止

全 十二月 出雲國鷺浦外五郵便受取所廢止

同 十二月 出雲國小田郵便局設置

同 十二月 讚岐國高松郵便局電信爲替事務開施

同 十二月 出雲國久村郵便局貯金郵便事務所ヲ小田郵便局ニテ繼

同 十二月 續取扱ハス

同 十二月 獨逸國保護ニ屬スル「ニューギニー」會社所領地ヲ萬國郵便局聯合ニ加入ス

同 十二月 上野國坂本郵便局移轉改稱

電信

勅令 十二月 電信料及手數料納付方

百六丁

農工商

宮城縣訓令 十二月 農業植物試驗地ヲ設置ス

四丁

博覽會 共進會

農商務省告示 八月 佛國巴利府萬國大博覽會規則附錄

五十二丁

宮城縣告示 十二月 奈良縣下奈良大佛殿ニ於テ博覽會ヲ開シ

四十丁

漁魚探査

第十二號令 十二月 日 漁場取締規則ヲ定ム 四十丁

國稅

大藏省訓令 第五號	十一月 七日	明治二十一年度内國稅徵收費計算帳簿整理方	三丁
本縣訓令 第十號	四月 四日	明治二十年十二月訓令第九十一號車稅規則取扱手續第四項中捺記シノ三字ヲ檢定シノ三字ニ改ム	十四丁
勅令 第七號	十二月 五日	車稅規則ニ附則ヲ追加ス	百十二丁
大藏省訓令 第七號	十二月 五日	内國稅未納還徵整理順序甲乙號樣式凡例中ヲ改正ス	五十二丁
勅令 第八號	十二月 六日	菓子稅則中ヲ加除改正ス	百十二丁
縣令 第十四號	十二月 八日	明治十六年甲第卅五號賣藥營業者心得第七項第二號書式中合計以下ヲ更正ス	九十六丁
縣令 第十五號	十二月 八日	明治十六年七月甲第六十三號布達第十條煙草製造帳簿樣式	九十七丁
内務省訓令 第三號	十二月 廿二日	神社費中招魂社費及全社營繕費決算證明方	百十四丁

地方稅

縣令 第十一號	四月 四日	道路橋梁河川堤防經營等ノ費用支出方法ヲ定ム	六丁
宮城縣訓令 第九號	四月 四日	地方稅所屬物品管理規則ヲ定ム	八丁

雜稅 賦金

農商務省訓令  
第三號 四月 二日 明治十九年十一月農商務省訓令第十八號ヲ廢ス

出納公債

大藏省告示 第九號	十二月 十二日	七分利付金祿公債元金償還抽籤金額	
全告 第十四號	十二月 廿二日	整理公債證書ニ引換ヘタル金祿及金札引換公証債証書金額	
全告 第十五號	十二月 廿二日	整理公債證書發行額	
全告 第十七號	十二月 廿五日	七分利付金祿公債證書當籤	
全告 第十八號	十二月 廿五日	七分利付金祿公債元金償還代トシテ整理公債證書交付ス	

內務省訓令  
第七二號  
警察官吏公務往復ノ瀛車賃支給法ヲ示ス  
二十丁

警察

縣令  
第三二號  
明治十二年(六月)甲第一百十六號布達藝妓營業願届方  
心得ヲ廢シ藝妓取締規則ヲ定ム  
五丁

外國交際

勅令  
第一一七號  
帝國、暹羅國トノ間ニ締結シタル修好通商ニ關スル宣  
一丁

雜類

大藏省告示  
第三二號  
金祿公債證書紛失  
三丁

宮城縣告示  
第四二號  
岩手縣福嶋縣ニ於テ皮疽病流行ノ件  
十四丁

全告  
第四二號  
本縣下皮疽病流行ノ件  
十四丁

全告  
第八二號  
紀元節參賀ノ件  
十九丁

遞信省告示  
第十二號  
金祿公債證書所在不分明

同告  
第十二號  
起業公債證書發見

同告  
第十二號  
主稅局租稅監查印章紛失

同告  
第十二號  
金祿公債證書所在不分明

同告  
第十六號  
金祿公債證書紛失



○勅令

明治二十一年一月二十七日

朕帝國ト暹羅國トノ間ニ締結シタル修好通商ニ關スル宣言ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

日本皇帝陛下及暹羅皇帝陛下ハ嘗テ兩國間ニ存在セシ友誼親睦ノ關係ヲ再起シ且ツ將來締結ス  
ヘキ條約ノ基礎ヲ定メシコトヲ欲シ日本皇帝陛下ハ外務次官從三位勳二等子爵西赤鷲大綬章子  
漏西王冠大綬章、和蘭ライオン大綬章子爵青木周藏ヲ全權委員ニ命ジ暹羅皇帝陛下ハ外務大臣  
ゼーモースト、ゼーグレッツド、エンド、エンシエント、オルドル、オフ、ゼー、ナイン、ゼムス  
及ゼー、モースト、イラストリヤス、オルドル、オフ、ゼー、ハウス、オフ、チヤクルクワイ、ム、  
ナイト、チユテ、チヨム、クヲオ大綬章ホウイト、エレフアント大綬章暹羅王冠大綬章ヲゾア  
ウオングセ親王ヲ其全權委員ニ命ジ雙方互ニ其委任狀ヲ示シ其正實適當ナルヲ確認シ左ノ宣言  
ヲ爲スコトニ議定セリ

宣言

此宣言批准ノ日ヨリ以後兩締約國間并ニ其臣民間ニ永遠無窮ノ平和親睦アルヘシ

兩締約國ハ互ニ其朝廷ニ外交官ヲ派遣シ又最惠國領事ノ駐在シ得ヘキ各海港市府ニ總領事、領事若クハ領事事務官ヲ置ノ權利ヲ承認ス

兩締約國ハ可成の兩國間并ニ其臣民間ノ通商及航海ヲ獎勵シ且ツ之ニ便宜ヲ得セシムルコトヲ約ス

完全ナル條約締結ニ至ル前ニ兩締約國ノ一方ノ臣民通商又ハ他ノ正當ナル目的ヲ以テ他ノ一方ノ領地ニシテ最惠國ノ臣民ニ通商ヲ許ス場所ニ來ル時ハ身財財產ノ保護及公平無私ノ待遇ヲ受クヘシ

前陳ノ事件ニ關スル詳細ノ事項ハ兩國間將來ノ條約ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

此宣言ハ成ル可ク速ニ遅クモ調印ノ日ヨリ四箇月以内ニ批准シ東京ニ於テ其批准書ヲ交換スヘシ

右證據トシテ雙方ノ全權委員ハ此宣言書ニ記名調印スル者也

明治二十年九月二十六日即チ陰曆ノ年アサユシヤマース月九日暹羅曆紀元千二百四十九旬九日西曆千八百八十七年九月二十六日

青木 周藏  
テゾアウオングセ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

帝國及ヒ暹羅國ノ間ニ嘗テ存在セシ友誼親睦ノ關係ヲ再起シ且ツ將來締結スヘキ條約ノ基礎ヲ定メノコトヲ欲シ明治二十年九月二十六日東京ニ於テ帝國及ヒ暹羅國兩全權委員ノ記名調印シタル宣言文各條目ヲ朕親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右宣言ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百四十八年明治二十一年一月二十日東京帝宮ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣伯爵伊藤博文

○大藏省訓令第五號 明治二十一年二月二十七日 府縣

明治二十一年度内國稅徵收費計算帳簿ノ儀ハ明治二十年度ノ組織ニ據リ調理スヘシ

○大藏省訓令第六號

明治二十一年一月二十八日

府縣

明治十八年(十一月)當省第七十四號達樣式中報告表ノ部開墾地(第二號)荒地(第三號)異動表ハ以來全管計ヲ以テ調成シ郡區譯ケテ爲スニ及ハス

○宮城縣訓令第八號

明治二十一年二月二日

各郡

農産ノ改良増殖ヲ計ルハ耕種培養ヲカムルニ在ルコト勿論ノ儀ナレド農理ニ関ヒ實驗ニ照ラシ土質ト植物トノ關係ヲ明カニスルニ非サレハ或ハ得失相償ヲニ足ラス農家終歲ノ勞力ト費用トヲ舉テ徒爾ニ屬セシムルノ憾アラシク由是先般其筋ニ請フテ管内土質ノ調査アランコトヲ求メシニ今ヤ幸ニ其調査ハ管内過半結了ヲ告ケ學理上各地植物ノ適否ヲ詳カニスルヲ得タリト雖モ尙之ヲ實際ニ試ムルハ尤モ必要ノ儀ナルニヨリ此際各郡内ニ一反歩以上一町歩内外ノ田圃ヲ以テ右試驗地設置セシムル樣計畫致スヘク其費用ハ町村費又ハ農業組合聯合協議費等ヨリ適宜支辨ノ方法ヲ定メ來ル四月限届出スヘシ

○宮城縣告示第四號

明治二十一年二月二日

本年五月海軍兵學校生徒五十名召募相成候條明治元年六月一日以後同五年四月二十日以前出生

ニテ志願ノ者ハ華士族平民ヲ論ゼズ別紙廣告書ニ據リ四月二十日限リ願書本縣ヘ差出スヘシ

但別紙廣告書ハ郡區役所ニ就キ熟覽スヘシ

○縣令第十號

明治二十一年二月三日

明治十二年六月甲第百十六號布達藝妓營業廢業願届方心得相廢シ藝妓取締規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但從來ノ營業者ハ本則發布ノ日ヨリ三十日以内更ニ願出免許証ヲ受ク可シ

藝妓取締規則

- 第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ父母又ハ最近ノ親戚(父母親戚ナキ者ハ證人二名)及ヒ抱主アル者ハ抱主連署ノ上戸長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ願出免許證ヲ受ク可シ但出願ノ際ハ本人自ラ其願書ヲ携帶シ所轄警察署又ハ分署ニ出頭ス可シ
- 第二條 轉居改氏名又ハ免許證ヲ遺失毀損シタルトキハ抱主アル者ハ抱主連署ノ上戸長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出免許證ノ書換又ハ再渡ヲ請フ可シ但免許證ノ遺失毀損ニ係ルモノハ戸長(區ハ區長)ノ與書ヲ要セス
- 第三條 廢業又ハ休業スル者抱主アルトキハ抱主連署ノ上戸長(區ハ區長)ノ與書ヲ受ケ所轄警

六  
察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ニ届出可シ但廢業ノ節ハ免許證ヲ返納ス可シ

第四條 客席ニ侍スルトキハ必ス免許證ヲ所持ス可シ

第五條 貸坐敷宿屋及料理店ニ同居スルコトヲ許サス

第六條 一泊以上他ニ宿泊シ又ハ旅行セントスルトキハ其事由ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツ可シ

第七條 第一條第二條第三條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八條 第四條第五條第六條ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

○縣令第十一號 明治二十一年三月四日

道路橋梁河川堤防樋管等ノ費用支出方法明治二十一年度ヨリ更正スルノ如シ

第一條 左ニ掲クル道路橋梁運河々川堤防樋管ニ係ル費用ハ地方税ノ支辨トシ其他ノ道路橋梁堤防樋管等ハ總テ關係區町村費ノ支辨トス

一國道 一縣道 一國縣道ノ橋梁

一松嶋灣船路 一北上運河 一東名運河

一真山堀 一北上川 一阿武隈川

一鳴瀬川 一追川 一江合川

一追川 一二追川 一三追川

一名取川 一廣瀨川 一白石川

一七北田川 一松川 一以上ノ運河及河川ニ屬スル樋管

一海岸堤防及樋管

第二條 左ニ掲クル河川堤防ニ係ル費用ハ工費總額ノ五分以内ヲ地方税ヨリ補助スヘシ但天災時變等ノ爲メ臨時ニ要スル費用ハ此限ニ非ス

一吉田川 一高城川 一真野川

一二股川 一夏川 一大川

一津谷川 一小川 一長崎川

一多田川

○宮城縣訓令第九號

明治二十一年二月四日

郡區縣立學校書籍館

地方稅所屬物品管理規則ヲ定ムルニ左ノ如シ但明治廿一年四月一日ヨリ施行ス(帳簿書式ハ別ニ頒ツ)

地方稅所屬物品管理規則

第一條 地方稅所屬ノ物品ハ所管長之ヲ管理スルモノトス

第二條 所管長トハ地方稅收入支出規則ニ於テ定メタル當該官チ云フ

第三條 物品ヲ類別シテ備品消耗品ノ二種トシ又備品ヲ分チテ共用備品(職員一般ニ使用スルモノチ云フ)各自用備品(職員各自專用スルモノチ云フ)ノ二類トス

第四條 物品ハ總テ會計主任之ヲ保管スルモノトス但各自用備品ハ其專用者之ヲ保管スヘシ

第五條 共用備品中一課若シクハ一係ニ亘ルモノハ所管長便宜保管者ヲ定ムルコトヲ得

第六條 物品ノ科目ハ左表ニ據ルヘシ

第七條 備品保存及修理期限ノ成規ナキモノハ破損ノ實況ニ依リ所管長之ヲ處分スヘシ

第八條 備品ノ保存又ハ修理期限ヲ經過シタルモノアルキハ會計主任之ヲ審査シ所管長ノ指揮ヲ受クヘシ

第九條 物品保管者ニ於テ備品ノ交換及修理ヲ要スルキハ其理由ヲ證明シテ之ヲ所管長ニ請求スヘシ

第十條 所管長ハ物品管理上左ノ帳簿ヲ備置クヘシ

一 第一類 備品原簿

二 第二類 備品原簿

三 備品受渡簿

四 消耗品受渡簿

五 本簿ハ各自用備品ヲ目毎ニ分類登記ス

六 本簿ハ備品ノ受渡ヲ登記ス

第十一條 前條ノ帳簿ヲ變更シ又ハ補助簿ヲ設ケントスルキハ其事由ヲ具シ縣廳ノ承認ヲ受ク  
 第十二條 物品ヲ交付スルキハ會計主任其帳簿ニ登記シ受領者ニ署名捺印セシムヘシ但總務等  
 三依リ物品ヲ返納シタルキハ其事由ヲ帳簿ニ記入スヘシ  
 第十三條 第一二類ノ備品原簿ハ永年之ニ保存スヘシ  
 第十四條 此規則ハ備荒儲蓄金所屬物品ノ管理法ニモ亦之ヲ適用ス

物品科目表

款	項	目	節
備品	器具器械	椅子類	各種ノ腰掛等修繕共
		卓類	各種ノ机簿記臺等全上
		箱類	書箱、文箱、長持、戸棚、文庫、鉄函、葛籠等

		桶類	水桶、鹽、釣瓶、手桶等
		室內備品	窓掛、机掛、時計、燧爐、火鉢、煙草盆、帽子掛等
		印章版木類	各種ノ印章版木等
		農工器具	鋤、鉋、斧、鍬等
		度量衡	
		臥具	寢床一切付屬品共
		船車	漁船、和船、荷車
		厨具	水瓶、鍋、釜、土瓶、茶碗、茶盆、炭取、火箸、柄杓等
		雜具	刷毛、糊板、雨具ノ類
		防火器械	
		寫字器械	
		帶劍捕繩等ノ類	巡查看守ノ帶劍等
圖			
書			



藥品	樟腦、石炭酸等ノ類
雜用品	蠟燭、生麩、封蠟、摺付木等ノ類
通信切手	
郵便切手	
電信切手	

○宮城縣告示第五號

明治二十一年二月四日

岩手縣下東磐井南岩手西磐井西閉伊氣仙紫波ノ六郡内ニ馬十九頭福嶋縣下宇多行方イニ郡内ニ於テ馬六頭皮膚病ニ罹リタル旨通知アリ

○宮城縣告示第六號

明治二十一年二月四日

一月十五日ヨリ同廿一日ニ至ル本縣下柴田郡ニ馬一頭名取郡ニ六頭遠田郡ニ一頭栗原郡ニ七頭登米郡ニ二十二頭本吉郡ニ四頭桃生郡ニ十八頭皮膚病ニ罹リタリ

○宮城縣訓令第十號

明治二十一年二月四日

明治二十年十二月訓令第九十一號車稅規則取扱手續第四項中「略記」ノ三字ヲ「檢定」ノ三字

ニ改ム

○勅令

明治二十一年二月三日

朕海軍督買部海軍會計檢査部廢止及海軍省會計局ニ檢査課ヲ置キ艦費課ヲ廢スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三號

海軍督買部海軍會計檢査部ヲ廢シ海軍省會計局ニ檢査課ヲ置ク又同局中艦費課ヲ廢シ其事務ヲ整理課ニ屬セシム

○宮城縣訓令第十一號

明治二十一年二月七日

郡區町村

明治廿年(四月)訓令第卅七號陸軍召集事務取扱細則第十三條ヲ改ムルコト左ノ如シ  
第十三條 例第百四十八條ノ名簿ハ第十樣式ニ據リ左ノ如シ調製スヘシ但第二充員召集者ハ郡區駐在官ノ通知ニ據ルヘシ  
某地集合之部



- 一 近衛豫備役 驅員 充員 名簿
- 一 近衛後備軍 驅員 召集 名簿
- 一 近衛歸休兵 充員 名簿
- 一 近衛豫備役 兵員 充員 名簿
- 一 近衛後備役 兵員 召集 名簿

某地召集之部

- 一 豫備役 驅員 第一(第二) 充員 名簿
- 一 後備軍 驅員 召集 名簿
- 一 歸休兵 充員 名簿
- 一 豫備役 兵員 第一(第二) 充員 名簿
- 一 後備役 兵員 召集 名簿

第十樣式其一

用紙美濃十三行野紙

近衛(鎮臺)豫備驅員第一(第二)充員名簿

步(騎)砲(工)(輜重)兵科之部

編入年月日	住	所	自住所	里	程	旅	費	官	名	姓	名
何年何月何日	何區	何村	何	何	何	何	何	何	何	何	某
何年何月何日	何區	何村	何	何	何	何	何	何	何	何	某
何年何月何日	何區	何村	何	何	何	何	何	何	何	何	某

○後備軍驅員召集名簿モ之ニ準シ調製スヘシ

○各部毎ニ耳札ヲ付シ且適宜餘白ヲ存スヘシ以下各項第二樣式ニ適用ス

○一人毎ニ一行ノ餘白ヲ存シ備考欄トスヘシ

○各自身上ノ異動ハ朱ニテ訂正シ死亡又ハ所轄外へ轉シ或ハ豫備役ヨリ後備役へ轉スル如キハ朱線ヲ畫シ所轄外ヨリ入ル者及ハ新タニ編入ノ者等ハ餘白へ加書シ且其要領ヲ備考欄内へ摘記主任之ニ認印スヘシ

○近衛ハ召集地ニ換ユルニ集合地ヲ掲ク同所迄ノ里程及旅費ヲ記スヘシ

○第二充員人名第一充員人名同一ナルトキハ別ニ第三充員名簿ヲ調製セズ第一充員名簿ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ但第一第二充員人名同一ニアラサルトキハ別冊ニ製シ尙第一充員名簿ノ人名ニ適宜記號ヲ付箋シ置クヘシ

第十様式其二  
用紙第一様式ニ同シ

近衛(鎮臺)豫備役兵員第一(第二)充員名簿

步(騎)砲(工)(輜重)兵(輸卒)(雜卒)(職工)之部		住所	旅	費等	級	姓	名
籤番號	住	自住所 至召集地	里程	旅	費等	級	姓
何年	何區	何町	何里	何圓	何十錢	上等兵(何等卒)	何
第何番	何村	何	何	何	何	何	某

○歸休兵及後備役兵員名簿モ之ニ準シ調製スヘシ

○徵兵令第廿條諸項ニ當リ特命者ハ本簿ニ準シ別冊ニ調製シ備考欄内ニ其事由ヲ摘記スヘシ

○籤番號肩書ノ年度ハ豫備役及後備役編入年度ヲ云フ但歸休兵ニアリテハ何年徵兵ト記スヘシ

○内務省令第二號  
明治二十一年二月六日  
廳府縣(東京府ヲ除ク)  
米國ニ於テ發行スル新日本ト題スル新聞紙ハ治安ニ妨害アルモノト認ムルヲ以テ新聞紙條例第二十一條ニ據リ自今内國ニ於テ發賣頒布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フヘシ

○宮城縣訓令第十三號  
明治二十一年二月八日  
六郡區町村  
明治十九年(七月)乙第四十二號徵發事務取扱手續第三條ヲ改ムルコト左ノ如シ

第三條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ費用ハ豫メ其收支方法ヲ適宜定メ置クヘシ

○宮城縣告示第七號  
明治二十一年二月八日  
來ル十一月 紀元節ニ付仙臺區在住ノ各公立學校職員及非役正七位以下勤七等以下ノ輩ハ通常禮服用午前第九時當廳ニ參賀スヘシ

○陸軍省令第一號  
明治三十一年三月三日  
客年第二次徵集ノ現役輜重輸卒ニシテ來ル四月及八月ニ入營セシムル人員ハ鎮臺毎ニ六十名(東京大坂兩鎮臺各九十名)宛ト定メ其他ハ鄉里ニ於テ服役セシムル人員ハ鎮臺毎ニ六十名但鄉里ニ在テ服役スル者ハ客年陸軍省令第十二號ヲ適用スヘシ

○海軍省令第二號 明治二十二年三月二日

明治二十年(一月)省令第三號海軍下士卒家族扶助金給與規則第一條左ノ通改正ス

第一條 海軍志願兵徵募規則海軍々樂員條例及海軍艦内教授警吏筆記採用規則ニ依リ出身シタル者現ニ下士卒ノ職役ニ服スル間ニ家族扶助金ヲ其家族ヘ一箇年ニ金十圓ヲ支給ス但單身戸主タル下士卒ノ附籍者及單身戸主タル下士卒ヲ附籍セシメタル者ニハ支給ノ限リニアラス

○内務省訓令第二號 明治二十一年二月七日 廳 府縣

集治監 假留監

明治二十年(五月)勅令第十二號秘設鐵道條例第二十一條公務ヲ以テ往復スル警察官吏及第二十二條囚徒護送ノ官吏ニシテ半價ヲ以テ乘車スル場合ニ於テハ明治十九年(六月)閣令第十四號及同年(六月)内務省令第十一號内國旅費ニ属スル汽車賃半額ヲ支給スヘシ

○農商務省訓令第三號 明治二十一年二月四日 北海道廳 府縣

明治十九年十二月農商務省訓令第十八號ヲ廢ス

○農商務省告示第一號 明治二十一年二月六日

明治二十年當省告示第十號東京農林學校々則第二十八條ニ依リ高等中學校豫科又ハ尋常中學校卒業證書ヲ有スル者ハ該校豫科第三年級ニ尋常中學校第二年級以上ニ進級シタル證明書ヲ有スル者ハ同則第二十九條ニ依リ該校第一年級ニ試験ヲ要セス直ニ入ルヲ許スヘキノ處當分ノ内英語學ノ一科々之ヲ試験スルコトヲ定ム

但此場合ニ於テハ受験料ヲ徵スルノ限ニ非ス

○閣令第一號 明治二十一年二月七日

明治十九年(五月)閣令第十二號中本曾大林區署ヲ松本大林區署ニ信濃國上松ヲ信濃國松本ニ改

○陸軍省告示第一號 明治二十一年二月四日

明治二十一年陸軍各兵科現役士官候補生及陸軍幼年學校生徒召募檢査格例同志願者心得並ニ取扱手續左ノ通定ム

但錄臺司令官ヨリ志願者ノ願書ヲ監軍ヘ進達スルノ期限ハ四月十五日迄トス(檢査格例署)

明治二十一年士官候補生及幼年學校生徒志願者心得並ニ取扱手續

第一條 士官候補生及幼年學校生徒志願者ハ陸軍各兵科現役士官補充條例及陸軍幼年學校條例ニ據リ採用ス然レモ左ニ記スル者ハ採用セス

一 士官候補生志願者ハ身長五尺幼年學校生徒志願者ハ齡十五年ニシテ身長四尺八寸十六年ニシテ四尺九寸十七年以上ニシテ五尺ニ滿タサル者

二 妻アル者

三 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

四 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケシ者

第二條 年齡ヲ算スルハ士官候補生志願者ハ二十一年十一月三十日幼年學校生徒志願者ハ同年八月三十一日ヲ以テス

第三條 士官候補生並ニ幼年學校生徒志願者入隊入校ノ上ハ士官候補生ハ現役士官補充條例第十六條幼年學校生徒ハ同條例第十七條ニ依リ自己ノ情願ヲ以テ除隊退校又ハ歸省スルヲ許サス

第四條 士官候補生ノ諸給與ハ陸軍各兵科現役士官補充條例第十六條及第十七條ニ據リ一切官費トシテ幼年學校生徒ニ在テハ幼年學校條例第四條ニ基キ戰死シタル(平時公務ノ爲メ不幸ニ死亡スル者モ之ニ準ス)將校並ニ之ニ相當スル高等官ノ孤兒ニハ一切官給トシ且若干ノ手當金ヲ給ス其他ノ者ニ在テハ修學費用及ヒ寢具ヲ除クノ外一切ノ費用ニ一箇月金七圓五十錢宛)ハ之ヲ上納セシム但シ時宜ニ依リ官費又ハ半官費(一箇月金參圓七十五錢上納)ト爲スコトアリ

第五條 幼年學校生徒ニシテ同條例第十八條ニ當該シ退校セシムル者ニシテ官費ノ給與ヲ受ケシ者ハ在校中ノ費用ヲ辨償セシム

第六條 華士族平民ヨリ士官候補生ヲ志願スル者ハ第一號第四號第五號書式ニ幼年學校生徒志願者ハ第三號第四號及ヒ第五號書式ニ照準シ願書ニ履歷書及ヒ誕生證書ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ陸軍各兵科現役士官補充條例第六條並ニ幼年學校條例第八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 陸軍部内ヨリ士官候補生ヲ志願スル者ハ第二號及ヒ第四號書式ニ照準シ願書ニ履歷書

ヲ添ヘ順序ヲ經テ鎮臺司令官ニ差出シ司令官ハ陸軍各兵科現役士官補充條例第五號ノ手續ヲ爲スヘシ但本人ノ名簿及ヒ定例ノ考科表ヲ添フヘシ

第八條 外國語學ノ檢査ヲ請ヒ及ヒ兵種ヲ企望スル者(士官候補生志願者ニ限り)ハ第六號ハヒ第七號書式ニ照準シ之ヲ證書ニ添フヘシ

第九條 華士族平民ヨリ士官候補生及ヒ幼年學校生徒ヲ志願スル者ノ願書ニハ父兄親族若クハ其他一家ヲ爲シ身元確實ナル者二人ヲ以テ身元保證人トナスヘシ

第十條 幼年學校生徒志願者ニシテ入學ヲ命ゼラレタル者ハ父兄親族若クハ其他一家ヲ爲シ身元確實ナル者二名(内一名ハ在東京ノ者タルヘシ)ヲ以テ身元保證人トナシ入學證書ヲ入學ノ日ヨリ三十日以内ニ出願ノ手續ニ從ヒ順次監軍部ニ差出スヘシ但戰死シタル(平時公務ノ爲メ不幸ニ死亡スル者モ亦之ニ準ス)將校並ニ之ニ相當スル高等官ノ孤兒ハ第八號其他ノ者ニ在テハ第九號ノ書式ニ照準シテ調製スヘシ

第十一條 志願者願書差出後入隊若クハ入校マテノ間ニ於テ轉任轉職若クハ轉籍改姓名等身上ニ異動アルトキハ出願ノ手續ニ從ヒ順次監軍部ニ届出ツヘシ又保證人事故アリテ其保證人辭

スルカ或ハ死亡セシトハ志願者ノ入隊若クハ入校ノ前后ヲ問ハス必ス其代人ヲ選定シ前同様届出ツヘシ

第十二條 幼年學校生徒ノ保證人ハ第八號或ハ第九號入學證書書式中ニ示ス如ク生徒身上ノ儀ハ何事ニ依ラス總テ引受クヘキモノナルヲ以テ若シ生徒修學中諸器具ヲ破損シ或ハ紛失シ本人自償ノ資力ニ乏レキトキハ必ス保證人ヨリ完納セシムヘシ

第十三條 檢査場開設ノ地並ニ檢査時日ハ別ニ將校學校監ヨリ鎮臺ニ通達ス

第十四條 鎮臺ニ在テ前條ノ通達ヲ受ケレハ之レヲ其部下各隊及ヒ管内ノ陸軍諸官廳並ニ府縣廳ニ通達シ凡ソ日限ヲ測リ志願者ヲ檢査地ニ召集シ其地所在ノ軍醫ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ合格者ノミヲ滞在セシメ試験委員ノ到着ヲ待テ第十號書式ノ志願者連名簿ヲ交附スヘシ

第十五條 鎮臺ニ在テハ試験委員到着前ニ學科檢査場二箇所(一ハ士官候補生一ハ幼年學校生徒志願者ノ爲メ)ヲ設ケ之カ準備ヲ爲シ置クヘシ

第十六條 陸軍部内ヨリ士官候補生ヲ志願スル者ニシテ檢査地外ニ在ル者ハ其地ノ軍醫ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ其合格者ノミヲ學術檢査時日ニ先チ檢査地ニ到ラシムヘシ此者ニ在テハ

旅費日當金二十錢滞在日當金二十八錢ヲ支給スヘシ

第十七條 總テ志願者ハ必ス検査時日ニ先チ指示ノ検査地ニ到着シ其地鎮臺若シハ營所ニ書面  
チ以テ止宿所等ヲ届出ツヘシ

第十八條 華士族平民ヨリノ志願者ニ在テハ検査場ノ往復並ニ滞在費等ハ一切自辨タルヘシ

第十九條 検査時日ニ際シ志願者中病氣又ハ事故等ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時

日ヲ遷延シ更ニ検査ヲ開クコトナシ尤モ病氣事故等ニ依リ當日缺場ノ者ト雖トモ他ノ検査場

開設ノ地ニ至リ検査ヲ請フ者ハ之ヲ許可スヘシ

第二十條 士官候補生志願者ニシテ合格ノ上入隊ヲ命スル者陸軍部内ニ在テハ給與概則第十一

章第廿一條ニ依リ旅費日當金四十錢ノ割ヲ以テ支給シ華士族平民ニ在テハ一日十里詰金四十

錢ノ割ヲ以テ着隊ノ上該隊ニ於テ精算支給スヘシ但幼年學校生徒志願者コシテ入校ヲ命スル

者モ亦本文ニ進ス

第一號書式(用紙美濃紙以下之ニ同シ)

士官候補生願

某 儀

此度陸軍出身志願ニ付士官候補生奉願候間御採用被下度御許可相成入隊ノ上ハ御規則嚴重ニ相  
守憲テ陸軍ニ従事可仕萬一學術不勉強又ハ品行不正等ニ依リ士官候補生ヲ免セラレ御定規年限  
ノ服役命セラレ候共決シテ違背不仕候依テ保證人連署此段奉願候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主ニアラサレハ誰子弟等

姓 名 印

何國何郡(區)何町村(村)産

年號月日生

何國何郡(區)何町村(村)何番地住寄留

明治十一年十一月何年何箇月

保證人

府(縣)何族(平民)

何國何郡(區)何町村(村)何番地寄留

姓 名 印

年號月日

同

同

同

鎮臺司令官姓 名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長

姓

名印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事

姓

名印

第二號書式

士官候補生願

某

儀

此度士官候補生志願候間御採用被下度此段奉願候也

隊號(所管)

年號月日

官姓

名印

年號月日生  
明治廿一年十一月何年何箇月

鎮臺司令官姓 名殿

第三號書式

陸軍幼年學校生徒願

某

儀

此度陸軍出身志願ニ付幼年學校生徒奉願候間御採用被下度御許可相成入校ノ上ハ御規則嚴重ニ  
相守可申候本人身上之儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ一切引受可申依テ身元保證人連署此  
段奉願候也

府(縣)何族(平民)職業

戶主ニアラサレハ誰子弟等

姓

名印

何國何郡(區)何町(村)何番地住寄留

年號月日生  
明治二十一年八月何年何箇月

身元保證人

府(縣)何族(平民)

何國何郡(區)何町(村)何番地(寄留)

年號月日

姓 名 印

同

同

同

監軍姓 名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長 姓 名 印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事 姓 名 印

第四號書式

書式ニ示ス外履歷ニ係ル者  
アルトキハ悉ク記載スヘシ

府(縣)何族(平民)職業

戸主ニアラサレハ誰子弟等

何年種痘(天然痘)

年號月日生 姓 名

一 祖父母

何某存亡

幼年學校生徒志願ニシテ將校並ニ相當官ノ戰死或ハ  
公務ニ依リ死亡シタル者孤兒ハ父何官姓名何年何月  
何日戰死何々ニ依リ死亡

一 父母(養父母)

同 同

(同上)

此他兄弟姉妹等在籍ノ者ハ皆之ニ準シテ記載スヘシ

一 何年月日任何官補何等出仕(出仕被免)何省(府)(縣)等

一 何年月日何職被申付(何職被免)何省(府)(縣)等

一 何年月日ヨリ何年月日マテ何々研究(商業)ノ爲メ何國(外國ヲ云)ニ在留

一 何年月日何ニ依テ賞與(下賜)

右之通相違無之候也

本人

姓 名 印



保證人

姓名印

同

陸軍部内ノ士官候補生志願者ニ在テハ保證人ヲ要セズ

第五號書式

誕生證書

府縣何國何郡(區)何町(村)住

何族(平民)職業

戶主ニアラサレハ誰子弟等

年號月日出生

姓名

右之通誕生年月日戶籍簿ニ照シ相違無之候也

本籍郡(區)戶長 姓名印

第六號書式

某儀

何兵科(步兵、騎兵、砲兵、工兵)企望致候也

年月日

姓名

第七號書式

某儀

何國(英、佛、獨) 語學御檢査奉願候也

年號月日

姓名

第八號書式(證券印紙貼用)

陸軍幼年學校生徒入學證書

某儀

此度陸軍出身志願ニテ幼年學校生徒入學御許可相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕萬一學術不勉強又ハ品行不正等ヨリ退校命セラレ候節ハ退校ノ日ヨリ三十日以内ニ在校中ノ費用一切本人及身元保證人ノ内ニテ辨償可仕且本人身上ノ義ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ

於テ引受可申依テ保證人連署證書如斯候也

本人

府縣何族平民職業

戸主ニアラサレハ誰子弟等

何國何郡(區)何町(村)產

姓 名 印

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

年號月日生  
明治廿一年八月何年何箇月

身元保證人

府縣何族(平民)

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印

年號月日

同 同

同

監軍姓 名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

前書之通相違無之候也

府縣郡區長 姓 名 印

府縣知事 姓 名 印

第九號書式(證券印紙貼用)

陸軍幼年學校入學證書

某 儀

此度陸軍出身志願ニテ幼年學校生徒入學御許可相成候ニ付テハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ  
從事可仕且入學中ノ費用ハ御規則ノ通上納可致ハ勿論入學中若シ官給ヲ相受ケ候上萬一學術不  
勉強又ハ品行不正等ヨリ退校命セラレ候節ハ退校之日ヨリ三十日以内ニ右官給ノ費用一切本人  
及身元保證人ノ内ニテ辨償可仕其他本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可申依  
テ保證人連署證書如斯候也

本人

府(縣)何族(平民)職業

戶主ニアラサレハ誰子弟等

姓 名 印

何國何郡(區)何町(村)產

年號月日生  
明治廿一年八月何年何箇月

身元保證人

府(縣)何族(平民)

何國何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

姓 名 印

年號月日

同

同

同

監軍姓 名 殿

前書之趣調査候處相違無之候也

府(縣)郡(區)長 姓 名 印

前書之通相違無之候也

府(縣)知事 姓 名 印

第十號書式

士官候補生(幼年學校生徒)志願者連名簿

身體合格

兵種隊號

官 姓 名

何等兵卒姓名

府(縣)何族(平民)

姓 名

同

計何名	同
身體不合格	
兵種隊號	
官 姓 名	何等兵卒姓名
府(縣)何族(平民)	
同	
計何名	同
事故	
兵種隊號	

病氣ニ付不參

官 姓 名

出願取消願ニ付不參

姓 名

同

同

何地検査場ニ於テ受験出願

計何名

總計何名

○宮城縣訓令第十三號

明治二十一年二月十日

郡 區

明治十一年度以降小學校經費豫算之義ハ認可ノ后區町村會ニ於テ變更増減セシキハ其變更増減シタル支出費目及收入豫算共毎校ニ取調開會後七日以内ニ申報スヘシ

○宮城縣告示第八號

明治二十一年二月十日

明治二十一年度陸軍各兵科現役士官候補生及陸軍幼年學校生徒志願書ハ來ル三月三十一日限り

差出ス可シ

○宮城縣告示第九號

明治三十一年二月十日

奈良縣下奈良大佛殿ニ於テ來ル三月一日ヨリ五月廿八日マテ博覽會開設ニ付管下著名ノ物產出品希望ノ者ハ來ル十八日限リ本縣第一部ニ申出ヘシ但同會規則ハ本縣第一部ニ就キ一覽スヘシ

○縣令第十二號

明治三十一年二月十日

漁場取締規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

漁場取締規則

第一條 縣内縣外何人ヲ問ハズ組合外ノ者從來ノ慣行特約ニ依リ捕漁採藻ノ業ヲ爲ス時ハ其地組合ノ規約ニ遵フ可シ

第二條 遊樂若シハ自用ノ爲メ魚介海藻ヲ捕採スル者ハ其地組合規約ニ定メタル禁停制限ノ事項ヲ遵守ス可シ

第三條 他府縣ノ沿海ニ到リ捕漁採藻ノ業ヲ爲ス者モ亦前二條ニ依ルヘシ

第四條 第二條第二條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓

二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○陸軍省告示第二號

明治三十一年三月十三日

今般參謀本部陸軍部測量局修技生四十名ヲ限リ東京府下ニ於テ召募ス依テ華士族平民中志願ノ者ハ左ノ通修技生檢査格例同志願者心得ニ據リ來ル三月三十日限リ願出ヘシ

參謀本部陸軍部測量局修技生檢査格例

第一條 檢査ヲ分ツテ左ノ六則トス

第一則 年 齡 滿十五年以上廿三年以下

第二則 體 格 強壯ノ者

第三則 讀書作文 讀書、日本外史十八史畧ノ類  
作文、公私往復文、記事ノ類

第四則 算 學 四則分數比例平方立方代  
數平面幾何平面三角術

第五則 圖 畫 初步

第六則 測 量 初步

第三條 檢査格ノ外高等敎學及外國學等ノ檢査ヲ請フ者ハ之ヲ許シ若干ノ點數ヲ與フ

第二條 検査ノ順序ハ第一則及第二則検査合格ノ上第三則ニ及テ而シテ其以下各則ノ検査ハ一

問題毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其總點數ヲ比較シテ優劣ヲ定ム

第四條 検査科目中其一科ニ合格セサル者ハ總ヒ總點數ニ於テ優等ナリト雖モ採用セス

第五條 検査場ニ會スル者ハ一切ノ書籍草紙等ヲ携帯スルヲ許サス

參謀本部陸軍部測量局修技生志願者心得

第一條 修技生ハ參謀本部測量局ニ於テ教成シ内國地圖及兵要地圖製造ノ專業ニ從事スルヲ以

テ目的トナス者ニ限ル

第二條 修技生ハ華士族平民中志願ノ者ヲ検査ノ上採用ス然レモ左ニ記スル者ハ採用スルコト

ナシ

一身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

二禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケシ者

三平常素行修マラス同郷同町村ニ於テ指斥セラレタル者

第三條 修技生ハ卒業ノ上陸軍技手見習ニ任スヘキ者ナルヲ以テ採用ノ日ヨリ決シテ他志ナシ

陸軍ニ從事スルノ誓約ヲ爲サシム故ニ採用ノ後ハ自己ノ情願ヲ以テ免除セサルモノトス然レ  
モ病患ニテ其業ニ堪ヘ難キ者ハ軍醫ノ診斷ニ由リ之ヲ處分ス又業務不勉強品行不正若クハ成  
業ノ目的ナキ者ハ免除ス可シ

但其不勉強等ニ依リ免除スル者ハ修業中ノ費用ヲ償ハシム

第四條 修技生修業ノ期ハ概テ三箇年トス而シテ一箇年毎ニ大試験ヲ行ヒ卒業及第スル者ハ其  
技倆ニ應ジ陸軍技手見習ニ任スルモノトス

但卒業及第セサル者及ヒ修業中疾病其他ノ事故ニ依テ豫定ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ尙  
ホ六箇月間修業セシム然ル上尙ホ成業ノ目途ナキ者ハ免除ス可シ

第五條 修業ノ期ヲ前條ノ如シ定ムト雖モ技術卓越ニシテ技手見習タルヘキ技倆アリト認ムル  
者ハ更ニ參謀本部陸軍部測量局技手登用検査ノ例ニ依リ検査ノ上技手見習ニ任スルコトアル  
ヘシ

但検査ノ點數ハ小試験及ヒ大試験ノ點數ヲ合算シテ定ム

第六條 修技生修業中ハ其教場ニ限リ入用ノ器械物品ヲ貸與シ且手當トシテ日々金廿錢ヲ給ス

但修技生ハ私宿ニ在テ日々定時限ニ通勤スルモノトス故ニ被服食料ハ一切自費ヲ以テ辨セシム

第七條 修技生ハ下ニ掲ケル三角測量、地形測量、製圖ノ内其一科目ヲ定期間ニ修得セシム

第八條 修技生卒業ノ上技手見習ニ任スル者ハ其任用ノ日ヨリ滿十箇年間ハ自己ノ情願ヲ以テ免職セザルモノトス且修業中ハ定例ノ外休暇歸省ヲ許サズ

第九條 修技生ハ東京府下(本籍寄留ノ別ナシ)ニ現在スル者ニ就テ召募ス故ニ志願ノ者ハ第一及第二號書式ニ照シ與書證印ヲ請ケ願書及履歷書等正副二通ヲ以テ直ニ參謀本部陸軍部測量局へ願出可シ

但父兄親族其他一家ノ戶主ニシテ身元慥ナル者二名(東京居住ノ者ニ限ル)ヲ以テ身元引受人トナシ書式ノ如ク連署ス可シ

第十條 志願者檢査合格ノ上ハ總合格者ノ優劣ヲ比較シ採用列序ヲ定メ優等ノ者ヨリ順次所要ノ人員ヲ採用ス故ニ合格者ト雖モ剩員ヲ生スルトキハ採用スルコトナシ

第十一條 志願者ノ檢査及檢査合格ノ上採用スルニ當リ出頭ヲ命ス可キ者ハ參謀本部陸軍部測

量局ヨリ直ニ本人ニ達スベシ

第十二條 修技生ハ採用ノ時左ノ如ク誓約署名捺印セシム

誓約

此度修技生ニ御採用相成候ニ付テハ他志ナク本職ニ從事シ御規則嚴重ニ相守可申且修業中ハ勿論任用ノ上ハ滿十箇年間ハ自己ノ情願ヲ以テ免職ヲ請願致シ候等ノ儀ハ毛頭仕間敷候依テ誓約如件

年號月日

姓

名印

參謀本部陸軍部測量局修技生定期間修業科目

三角測量

算學 高等代數學、代數幾何學、微積學摘要、最小方數法

物理學

化學 概要

地文學

圖畫學 標高平圖幾何學、二面平圖幾何學、幾何畫法、  
道彩及暈渲法、寫景法、

地形測量 概要

製圖 右同

三角測量 三角測量學一般、基線測量法、測角法、水準測量法、投影諸法、  
經緯度及指角、計算法、三角術上ノ高低測量、  
三角測量及水準測量ノ諸平均計算法、

地形測量

算學 球三角學、高等代數學摘要、代數幾何學摘要、  
最小方數法摘要、

物理學

化學 概要

地文學

金石地質  
及土性學 概要

圖畫學 標高平圖幾何學、二面平圖幾何學、幾何畫法、  
道彩及暈渲法、寫景法、

三角測量 概要

製圖 寫圖及縮圖法、非製版及製版式圖法、暈渲及暈滲圖法、  
地形圖々法、製版大意、

地形測量 地形測量學一般、磁針儀測圖、測傾磁針儀測圖、測版測圖、測角圖根測量、圖解圖、  
根測量、五千分一測圖、二万分一測圖、五万分一測圖、目測圖、道路測圖、  
地形測圖、

製圖 代數學、幾何學、三角學、高等代數學摘要、  
代數幾何學摘要、

算學

物理學

化學

地文學

圖畫學 標高平圖幾何學、二面平圖幾何學、幾何畫法、道彩及暈渲法、  
器械圖、建築圖、寫景法、寫生法、畫論、

三角測量 概要

地形測量 同

製圖 製圖學一般、縮圖諸圖、非製版及製版式諸圖法、諸式投影法、  
諸式地形描畫法、地形圖々法、帝國圖々法、寫真製圖法、  
銅版石版、電氣或ハ寫真製版術、

化學、圖畫學、及製圖、課內專門技術ノ區別ニ從ヒ其要部ヲ修業セシム

第一號書式 (用紙美濃白紙)



修技生願

某儀

參謀本部陸軍部測量局修技生志願ニ付御検査被下度御採用ノ上ハ御規則嚴重相守可申且本人  
身上ノ儀ハ何事ニ由ラス引受人ニ於テ引受可申依テ履歷書相副引受人連署此段奉願候也

何府(縣)何族(平民)職業

戶主ニ非サレハ誰子弟等

何國何郡(區)何町(村)產

姓 名 印

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地住

年號月日生  
明治何年何月何年何箇月

東京府下何郡(區)何町何番地全戶單身寄留

身元引受人

何府(縣)何族(平民)

東京府下何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)

戶主

姓 名 印

右同

戶主

姓 名 印

年號月日

參謀本部陸軍部

測量局長官姓名殿

右ノ通願出候ニ付取調候處相違無之候也

東京府何郡(區)何町(村)戶長(戶長ナキ地ハ區長)

姓 名 印

前書之通相違無之候也

東京府知事 姓 名 印

第二號書式 (用紙美濃白紙)

履歷書

府(縣)何族(平民)職業

戸主ニアラザレハ誰子弟等

姓 名

年號月日生

明治何年何月何年何箇月

一何年何月種痘(天然痘)

一祖父母 何某存亡

一父母 同 同

一養父母 同 同

此他兄弟姉妹等在籍ノ者ハ皆之ニ準シテ記載ス可シ

一何年月日任何官(補何等出仕)(免本官)(出仕被免)(何省(府)(縣)等)

一何年月日何職被申付(何職被免)(何省(府)(縣)等)

一何年月日ヨリ何年月日マテ何々研究(商業)ノ爲メ何國(外國ヲ云フ)ニ在留

一何年月日何ニ依テ賞典何々下賜ル

右ノ通相違無之候也

年號月日

本人

姓

名 印

身元引受人 同

同 同

○縣令第十三號

明治廿一年二月十五日

正副議長及常置委員撰舉ノ爲メ本月廿二日ヨリ臨時縣會ヲ開ク

○宮内省達第三號

明治二十一年二月八日

明治十九年八月十二日本省達第十號學習院規則第十三條へ左ノ一項ヲ追加ス

奉期休業 三月中旬ヨリ四月

上旬迄ノ内一週日

○大藏省訓令第七號

明治二十二年二月十五日

北海道廳 府縣(沖繩縣ヲ除ク)

甲號様式凡例第二項

一 追徴處分ノ末官損ニ歸セシモノハ其徵稅令書ヲ發セシ年度ノ臺帳へ記入スルモノトス但

徵稅令書ヲ發セサルモノハ其指令三月卅一日巳前ニ係ルモノハ該當年度四月一日巳降ニ

係ルモノハ翌年度ノ臺帳ヘ記入ス

乙號樣式凡例第三項

一 未納減額ノ内官損及缺損額並追納額ハ本年度未納臺帳ニ登記セシ金額ヲ記入ス

○農商務省告示第二號

明治二十一年二月八日

客歲(十二月)當省告示第九號佛國巴里府萬國大博覽會出品手續第十條第一號ヨリ第三號マテノ附録左ノ如シ

佛國巴里府萬國大博覽會規則附録

第一號

部類別

第一部 美術

第一類 油畫

麻布、片板及ヒ塗物類ノ畫

第二類 諸種ノ圖畫

水色細畫、水色畫各種鉛筆ノ圖畫、玻璃板ノ畫、陶磁器類ノ畫、板畫及ヒ壁畫

第三類 彫像及ヒ票牌ノ彫刻

陽刻及隱起ノ彫物、壓印シ及ヒ彫刻シタルモノ「カメ」(寶石ノ彫刻)彫刻シタル石、象嵌細工

第四類 建築學ノ圖案及ヒ雛形

著作、簞什、家屋ノ圖案、古跡或ハ舊記ニ據テ古代建築ノ全形ヲ示シタルモノ

第五類 印版術及ヒ石版術

黑色ノ印版、彩色ノ印版、鉛筆及ヒ毛筆ノ黑色石版、點色石版

第二部 教育及ヒ知學、藝術用ノ機具及ヒ方法

第六類 幼童ノ教育、小學校、壯年ノ教授

孩兒院、保母學校、孤兒院及ヒ幼稚園ノ圖案及ヒ雛形、其裝置及ヒ什物、學校ニ入ルル前幼童ノ體格、道德、智力ヲ養成ス可キ機具

市街及ヒ村落學校ノ圖案、其裝置及ヒ什物、書籍、地圖、裝置手本、其他教育用ノ物品

壯年ヲ教育シ並ニ職業ヲ練習セシムル學校ノ圖案、及ヒ雛形、其裝置及ヒ什物、壯年ノ教育及

七職業練習ノ用ニ供スル機具

諸種ノ學科ノ初步ヲ教授スル機具、幾何學ノ線圖及ヒ圖學ノ初步ヲ教授スル機具、盲、聾、啞ノ教育ニ用ユル機具

男女生徒ノ科業

文庫及ヒ出版物

第七類 中學校ノ組織及ヒ其機具

男女中學校、即チ「リセー」「ギムナース」「コレーシユ」(共ニ中學ノ名稱)製作學校、商業學校ノ圖案、其裝置及ヒ什物

百科類聚、科業書、地圖、及ヒ地球儀

學藝專修學校、美術、圖畫、音樂、唱歌學校ノ機具

體操、劍術及ヒ兵式體操ノ裝置及ヒ方法

第八類 高等學校ノ組織、方法及ヒ機具

學士會院、大學校、醫學校、實業學校、專修學校、農學校、觀象臺、學術博物館、講議堂、教授及

ヒ學術研究ニ用ウル試驗室等ノ圖案

右ノ諸校舍ノ裝置及ヒ什物

高等ノ教育及ヒ學術研究ニ使用スル裝置、器具、類聚

學士協會、農工商ノ諸協會及ヒ藝術協會ノ特別ノ出品

學術研究ノ爲メニ派遣スル委員ノ用具

第九類 印刷物及ヒ書籍

印刷物ノ見本、石摺、黑色及ヒ彩色ノ石版畫、銅版ノ摺物

新版 書籍、既ニ世上ニ行ハレタル書籍ノ新版特別ノ文庫ニ納ム可キ著作ノ類聚、定期刊行

物、圖、地圖及ヒ書畫帖

第十類 製紙、綴紙、畫圖用ノ機具

紙、紙牌、表紙、墨汁、白墨筆、鉛筆、石筆、文房ノ什物、文具、墨壺、書簡秤、印書ノ壓摺器類

紙ニテ製シタル物品(光線反射器、提燈、盆、鉢ノ紙包類)帳簿、書畫帖、手簿、製本、封筒、表紙類

各種水色ノ物品、麵包色、膀胱色、管色、鱗色ノ繪ノ具、畫工、圖工、模造工ノ用ユル器械料具